

平成30年北海道胆振東部地震
北海道災害リハビリテーション推進協議会
災害リハビリテーション支援活動報告書

2020年1月

北海道災害リハビリテーション推進協議会

北海道胆振東部地震支援を経験して

北海道災害リハビリテーション推進協議会 代表

札幌医大付属病院 リハビリテーション医学講座 教授 石合 純夫

平成 30 年 9 月 6 日北海道では観測史上初の震度 7 となった「平成 30 年北海道胆振東部地震」が発災した。北海道災害リハビリテーション推進協議会は、2014 年 3 月に発足し、熊本地震など道外での災害リハビリテーション支援を経験してきたが、北海道が被災したことは、設立以来初めてであった。

発災翌日に「北海道胆振東部地震災害リハビリテーション対策本部」を開設。北海道庁や北海道医師会と交渉を行い、9 月 11 日から 9 月 20 日まで、厚真町・安平町・むかわ町にて災害リハビリテーション支援活動を行った。

この間、道内のリハビリテーション関連の職能団体を通して支援者の募集を行い、のべ 86 名（54 名が現地支援・32 名が本部活動）が、災害リハビリテーション支援を行った。これらの活動は、道内リハビリテーション関連職能団体をはじめ、多くの皆様のご理解・ご協力の成果であり、深く感謝しつつ活動報告させていただきます。

目次

	頁
北海道胆振東部地震支援を経験して	
北海道災害リハビリテーション推進協議会 代表 石合 純夫	i
I. 報告書作成にあたって	1
1) 北海道胆振東部地震における当院の支援活動	
北海道災害リハビリテーション推進協議会 副代表 橋本 洋一	2
2) 胆振東部地震 覚え書き	
札幌溪仁会リハビリテーション病院 院長 横串 算敏	3
3) 北海道胆振東部地震活動報告	
北海道回復期リハビリテーション病棟協会 会長 橋本 茂樹	4
4) 9月6日、胆振東部地震を振り返って	
公益社団法人 北海道理学療法士会 会長 太田 誠	5
5) 胆振東部地震の支援活動を振り返って	
公益社団法人 北海道作業療法士会 会長 清水 兼悦	6
6) 北海道胆振東部地震を経験して	
一般社団法人 北海道言語聴覚士会 会長 小橋 透	7
7) 北海道胆振東部地震の支援活動に関して	
公益社団法人 日本義肢装具士協会北海道支部 支部長 小嶋 聡	8
8) 北海道胆振東部地震を経験して	
一般社団法人 北海道介護支援専門員協会 会長 村山 文彦	9
II. 災害の概要	10
III. 対策本部及び会議	12
1) 胆振東部地震災害リハビリテーション対策本部設立まで	12
2) 対策会議の要約について	12
IV. 派遣募集について	18
V. 福祉用具について	20
VI. 活動報告書	23
1) 9月11日(火) むかわ町	24
2) 9月12日(水) むかわ町・厚真町	25
3) 9月13日(木) 厚真町	29
4) 9月14日(金) 厚真町・安平町・むかわ町・穂別町	31
5) 9月15日(土) 厚真町・安平町	35
6) 9月16日(日) むかわ町・安平町	39

7)	9月17日(月)	厚真町・安平町・むかわ町	43
8)	9月18日(火)	厚真町	52
9)	9月19日(水)	厚真町・安平町	54
10)	9月20日(木)	むかわ町・厚真町・安平町	59
VII.	胆振東部地震	費用関係	63
VIII.	謝辞		64
	参考資料		65
1.	災害状況図		
2.	福祉用具一覧		
3.	俯瞰図		
4.	避難所チェックシート		
5.	活動終了後アンケート結果		
6.	北海道胆振東部地震での災害リハビリテーション活動報告		
	(The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 56 巻特別号 Page2-8-1-1,2019.05)		

I. 報告書作成にあたって

1) 北海道胆振東部地震における当院の支援活動

北海道災害リハビリテーション推進協議会 副代表

苫小牧東病院 理事長・院長 橋本 洋一

平成 30 年 9 月 6 日 3 時 7 分に北海道胆振中東部を震源として発生した地震にて厚真町、安平町、むかわ町を中心とした地域が大きな被害を受けました。当院は震源地より 30km 程度であり、全道ブラックアウトがおきたなかで発災直後より震源地付近の施設より緊急での患者受け入れを行いました。その後、JMAT 傘下として DoRAT の活動開始に合わせ、医師、療法士 2 名、看護師 1 名の計 4 名にてチームを派遣し、支援活動を行いました。

JMAT 撤退後のリハ支援が途切れた後、11 月より北海道リハビリテーション専門職協会 (HARP) が主体して行った、住民主体の自主サークルの立ち上げ及び活動定着を支援に対して地域のリハ基幹病院として療法士を派遣し、活動のサポートを行いました。

発災直後より医師会や DoRAT、HARP など様々な団体との連携や調整を行いながらスタッフを派遣し、支援を行うことができたが、地域の機関等とも平時より緊密な連携を図り、有事に素早くサポートできる体制づくりも重要と感じる。

2) 胆振東部地震 覚え書き

札幌溪仁会リハビリテーション病院

院 長 横串 算敏

平成 30 年 9 月 6 日に発生した胆振東部地震では、北海道災害リハビリテーション推進協議会 (DoRAT) を軸に災害リハ支援活動が行われた。DoRAT の一員として当時を振り返ってみたい。

初動-DoRAT は 2014 年に設立され、役員を中心に平時の活動が継続されていたので、発災時の対策本部の立ち上げは迅速であった。

北海道災害対策本部、北海道医師会との連携-現地での初期活動は、災害救助法に基づいた地域防災計画に定められているので、道の対策本部、医師会の担当部署との連絡が必要であった。災害救助法に支援に関わる医療職としてリハビリテーション関連職種が明記されていないのが、最大の課題であることを痛感した。今回は日本医師会災害医療チームの一員として DoRAT の活動が保証されたが、災害救助法の期限以降の活動については、DoRAT 独自の活動継続が十分できなかったことが反省点である。

チームの派遣-派遣中の身分保障、災害補償が明確でなかったことと、派遣スタッフの管理者・経営者の支援が限られていたことが今後の課題である。DoRAT の活動が公的なものとして認知されるための平時の取り組みが必要であろう。

福祉用具の調達-福祉用具貸与事業所などの無償の協力が得られ、早期から避難所に配備できたことは特筆すべきことである。衣食住の「住」に関わるリハ支援で福祉用具の早期調達は重要であることを実感した。

急性期以降の支援-地域リハビリテーション活動の一環として、活動の主体を地域の組織に引き継いでいくのが基本である。今回は北海道リハビリテーション専門職協会 (HARP) の地域活動として継続できたが、発災時の HARP と DoRAT の連携について平時に協議を積み重ねる必要がある。

3) 北海道胆振東部地震活動報告

北海道回復期リハビリテーション病棟協会

会 長 橋本 茂樹

今回の地震は広大な北海道での限局された地域の災害でした。その地域に近い苫小牧東病院に積極的にかかわって頂いたことに感謝です。全般的には DoRAT 事務局がもう少し主導権をもって指示して頂ける体制があった方が動きやすいかと思いました。

今回、医師の協力要請に対し、可能との返事を数人から頂くことができました。私たちの協会に対し、いつ何人医師を出してほしいと具体的な要請があると逆に呼びかけやすいし、反応が出やすいかと思いました。また、約 45 病院が会員ですので、協力金の要請も可能と考えております。当初の活動に対する必要な資金は、重要ですので早めの要請をお願いいただければ動きます。

今後は災害対策として、支庁ごとに当会員のリハ病院の中から担当を決めて初期対応や情報収集をしていただく体制をこちらも作っていただければと考えております。また、地域で活用されている住民体操などの情報も前もって情報収集しておくといいかと思います。

4) 9月6日、胆振東部地震を振り返って

公益社団法人 北海道理学療法士会

会 長 太田 誠

発災翌日に本会では、「北海道災害リハビリテーション協議会（DoRAT）」を支援する形で、リハ専門職を主体とする「災害リハ支援対策本部」に参画しました。北海道、北海道医師会との連携の元、早々に士会員への支援者募集を開始し、9月11日にはDoRAT第1隊をむかわ町に送り、以降第20隊まで活動しました。JMATの収束宣言が9月20日にあり、DoRATも撤退する旨の指示が降りたため、翌21日には活動終了となりました。

その後、2ヶ月遅れにはなりましたが、「北海道リハビリテーション専門職協会（HARP：北海道理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚師会が会員）」で同時期に進めていた「地域医療介護総合確保基金」を使った地域支援事業を被災地である厚真町と安平町に展開することで、間接的ですが被災地域の支援活動を継続することができました。今回の地震で、広大な面積を有する北海道においては「支援」と「受援」の両体制を同時に進めなければならないことを改めて認識させられました。

現在、本会では今年6月から一部組織改正を行い「社会局災害リハビリテーション支援部」を新設し、体制強化を進めております。

5) 胆振東部地震の支援活動を振り返って

公益社団法人 北海道作業療法士会

会 長 清水 兼悦

6日の早朝、道の地域医療推進局にDoRAT本部が立ち上がるまで暫定の窓口となる旨を連絡し、夕方にはDoRATの光増代表、HARPの太田会長と今後の対応について協議し、対策本部用 jisin@gmail.com を発信した。7日の早朝には、医務薬務課が災害リハ支援の窓口となり、夕方には北海道JRAT対策本部として正式な活動につながった。

DoRAT活動の収束に伴い、18日と19日に、医務薬務課と地域リハビリテーション広域支援センターでの活動継続について協議したが、胆振東部地区では活動が終了しており、断念するとともに、HARPの太田会長とともに高齢者保健福祉課と協議を開始して、地域医療介護総合確保基金での住民主体の自主サークル立ち上げ事業の一環として、厚真町やむかわ町にて被災者への生活支援を提供するにいたった。

とにもかくにも、平時の連携がすべてであり、今後に備えを続けるしかない。

6) 北海道胆振東部地震を経験して

一般社団法人 北海道言語聴覚士会

会 長 小橋 透

震度 7 の地震は 2011 年の東日本大震災、16 年に熊本地震、18 年に北海道胆振東部地震で起きています。東京を中心とする首都直下地震は、今後 30 年以内に 70%の確立で起きるとされています。北海道東部沖合い（根室沖）の千島海溝付近でも近い将来、ここを震源として M9 クラスの巨大地震が起こる確率が 50%として、警戒されています。さらに、東日本大震災以降は火山の噴火や異常気象も相次いでいます。日本はいま 1000 年ぶりの大地変動の時代がはじまったようです。

こうした状況のなかでかけがえのない命を守っていかなければいけません。

北海道で安全に暮らすには、天災についての正しい知識をもち、減災についての知恵や技術を共有していくことが必要です。そして、知恵や技術を一人でも多くの人に伝えていきましょう。

7) 北海道胆振東部地震の支援活動に関して

公益社団法人 日本義肢装具士協会北海道支部

支部長 小嶋 聡

DoRAT には 2 名の義肢装具士がメンバーとして参加しています。平成 30 年 9 月 6 日の発災直後の 9 月 7 日の第 1 回対策会議から義肢装具士として早川康之氏が毎回参加しました。被災地への派遣が始まった 9 月 12 日からは小嶋も加わり、2 名が本部運営に参加させていただいて、情報収集やロジスティクスに関わっていました。

今回の災害で災害派遣募集には 1 名の義肢装具士が希望をしてくれましたが、発災して 2 週間でリハビリテーション支援が収束となり、派遣されることは叶いませんでした。

災害支援のはじめのころ、被災地にチームとして入っていた医師から簡易コルセットと膝サポータの要請があり、日本義肢装具士協会本部を通じて手配を行いました。収束前の入手が叶いませんでした。避難所には福祉機器販売業者様の協力でたちあっぷや歩行器などが無償で貸し出しをしていただきましたが、これらに直接関わることはありませんでした。

今回の支援活動を通じて、義肢装具士が求められている物的支援は当然のことと思いますが、災害派遣に積極的に参加し、被災者のニーズや福祉用具などの適合に積極的に関わる必要があるのではないかと感じています。そのためにも、支部活動において災害支援の必要性を会員の皆様に周知していきたいと思えます。

8) 北海道胆振東部地震を経験して

一般社団法人 北海道介護支援専門員協会

会 長 村山 文彦

日本介護支援専門員協会は JRAT の設立団体でもあり、北海道協会も地域 JRAT の北海道災害リハビリテーション推進協議会（DoRAT）へ結成から参画をさせていただいています。

昨年 9 月 6 日の胆振東部地震では、7 日に本会災害対策本部が設置され、道内のケアマネ等の被災状況の確認作業などが開始されました。また同日、DoRAT も対策本部を設置しました。このため発災後はケアマネ支援業務が優先され、本会として DoRAT のロジ業務等に協力をすることできなくなり大変申し訳なく思っています。

胆振東支援では DoRAT の支援チームの派遣メンバーに、ケアマネが帯同する構想がありましたが、DMAT の撤収と連動して災害リハ支援が予期せず終了したため、ケアマネとりハ職が連携した災害支援活動の実績を残せなかったことはとても残念に思っています。

本会では災害支援ケアマネジャーの育成を進めており、今後とも災害支援に向けた連携を推進させていただければと思っております。

II. 災害の概要

北海道災害リハビリテーション推進協議会 理事長 光増 智

1) 地震の概要

発生日時 : 平成 30 年 9 月 6 日 3 時 7 分

震源地 : 胆振地方中東部 (北緯 42.7 度 東経 142.0 度)

震源の深さ : 37km

地震の規模 : マグニチュード 6.7

各地の震度 (震度 5 強以上) : 震度 7 胆振 (中東部)、震度 6 弱 石狩 (中部・南部)、
日高 (西部)、震度 5 強 空知 (南部)、日高 (中部)

2) 人・建物の被害

①人的被害 : 死亡 44 (うち災害関連死 3)

重傷 51

中等傷 8

軽症 726

②建物被害 : 全壊 479

半壊 1736

一部損壊 22741

3) その他の被害状況

① 土砂崩れ 震源に近い厚真町を中心に広い範囲で発生した。

② 液状化 確認されただけで、北海道内 15 市町村で地震の影響と思われる液状化を認め、札幌市清田区をはじめ 50km 以上離れたところでも、住宅被害が起こっている。

③ インフラ

i) 電力 (地震後のブラックアウト)

この地震により北海道における消費電力の約 4 割を供給していた苫東厚真発電所が緊急停止。北海道内の電力需給バランスが崩れ、地震直後から一部離島を除くほぼ北海道全域が停電するブラックアウトが発生した。その後の検証では、ブラックアウトは約 11 時間ほぼ全道的に停電し、全道の 5 割が電源復旧したのは発生後約 30 時間後で、64 時間後に北海道電力が復旧宣言を行っている。

ii) 水道

ブラックアウトの影響で、一時道内の広範囲で断水がおこった。水道管の破損等で厚真町や安平町では、約 5000 戸が長期間断水した。

iii) 交通・通信などもブラックアウトの影響で、一時広範囲に麻痺状態となった。

III.対策本部及び会議

北海道災害リハビリテーション推進協議会 理事長 光増 智

1) 胆振東部地震災害リハビリテーション対策本部設立まで

発災時、札幌市内でも大きな揺れが発生し、甚大な地震被害が想定されたため、北海道災害リハビリテーション推進協議会（略称 DoRAT）は、HARP（北海道リハビリテーション専門職協会）と連携し、地震対策本部を設置すべく活動を開始した。発災当日は、札幌市内でも電源・通信復旧していない地域がほとんどであったが、連絡用メールアドレスを開設。翌日には、電源・通信が復旧し札幌中心部へのアクセスが良い札幌溪仁会リハビリテーション病院のご厚意で、当面の対策本部を同院に開設。9月7日、胆振東部地震災害リハビリテーション対策本部にて、第一回対策会議が行われた。

2) 対策会議の要約について

災害リハビリテーション活動開始にあたって、JMAT（日本医師会災害医療チーム）傘下としての活動を行うため、北海道庁・北海道医師会との交渉が必要であった。全国的な災害リハビリテーション活動は、実質的に東日本大震災が契機となっているが、それ以降で北海道が大規模災害の被災地となったのは初めてであり、ロジスティクスを含め本部機能を運営するノウハウが皆無であったため、我々は、全国規模の支援協力をお願いし、活動を行う中でノウハウを学ぼうとした。しかし、今回の支援の交渉においては、当初から北海道内完結を求められた。今後、同様のことが他の都府県も起こりえると考えられる。その参考にして頂くため、対策会議のやり取りは、なるべく正確に要点を記載した。

第1回 2018.9.7（金）

要旨

①現状報告

- ・ 各士会は会員の安否確認中。
- ・ 札幌市内でも停電中、復電した所がまちまち。
- ・ 札幌市内では、配食サービスがストップ
- ・ DMAT は、苫小牧市立病院に現地本部を開設

②DoRAT としての戦略

- 1) 被災地近く（苫小牧？）に現地活動本部があると良いか。
- 2) JRAT への依頼は、道庁から派遣要請。まず、道庁に相談。道内で自立した支援ができ

ない所を広域支援で願います。

- 3) 道医師会にも連絡
- 4) 活動資金は、あとの弁済を見込むが、まずは個人持ち出し。
- 5) 札幌本部は、溪仁会札幌リハ病院が提供頂ける。
- 6) 撤収時の、広域リハ支援センターにつなぐ必要。他県も苦勞している。今から少し動くべき。
- 7) 募集は、各士会、リハ医道地方会のホームページへ掲載依頼。
- 8) 現地視察は、苫小牧東病院の厚真方面出身者をお願いできないか。
- 9) 初動チームは、道から依頼が来た時点で動ける人員必要。まず DoRAT 内で組成か。

第2回 2018.9.9 (日)

要旨

①宮城県理学療法士会 坪田さん来札 (9.8) し、アドバイスを受けた。

- ・ 道との交渉が重要。
- ・ 運営資金は、各士会に支援金を要請しては？
- ・ 情報整理。
- ・ 地図の作成と巡回ルートの確認を早急に。
- ・ 避難所アセスメントシートの作成。
- ・ 記録が重要。PC、プリンター、ネット環境の準備は必須。

②関係機関との調整先 (週明けに)

- ・ 道庁、道医師会、札幌市医師会、苫小牧東病院、胆振対策本部

③現地情報

- ・ 厚真社協：受け入れ態勢まだ。
- ・ 苫小牧東病院：準備段階

④交通状況の把握

⑤運転資金

- ・ 各士会、全国の士会からも1カ月はかかる。
- ・ DoRAT 活動資金の寄付を募る口座を作る。

⑥道、JMAT との協業

- ・ 道、JMAT の災害リハビリへの認識は未知数。
- ・ 道医師会からの情報では、JMAT は動かない可能性も。
- ・ 必要なら、日本医師会から道に連絡をお願いすることは可能か。

⑦保険について

- ・ 要確認だが、災害リハビリ活動は、厳しくなっている。

⑧支援申し込みフォームについて

⑨福祉用具の供給について

- ・ 義肢装具協会、JASPA が窓口。

⑩緊急的に組織図の作成

⑪札幌市内被災地の支援状況

- ・ 札幌市が全て賄っており、外から支援取っていない。

道庁とのメール 2018.9.10（月）

- ・ 道庁は現時点では、DoRAT 出動要請は考えておらず。道医との調整を指示される。

道医師会担当へのメール（横串 Dr 発） 2018.9.10（日）

- ・ 災害リハビリ活動の必要性について

道庁から DoRAT 出動要請 2018.9.11（火）朝

鶴川厚生病院に派遣されている DMAT から、JRAT 活動必要との連絡あり。

同日第 1 班 むかわ町にて活動開始。

第 3 回 2018.9.11（火）

①第 1 班の報告（むかわ町）

- ・ 鶴川厚生病院から、むかわ町最大の避難所（四季の館）を訪問。
- ・ 保健師と連絡が取れたが、避難所評価は手付かず。段ボールベットは到着済。対象者や設置ノウハウが判らず、指導要請あり。

②今後の戦略について

- ・ 初期の派遣は、災害リハビリをある程度理解した人選。
- ・ 札幌とその他の地域は、ニーズなさそう。胆振に絞る。
- ・ 派遣要員は、他都府県の JRAT 等広域にもお願いしたいが、今日現在では全体像が見えない。今後のリハトリアージ次第。栗原先生に、全国になった想定で、派遣の調整をお願いしては。
- ・ 厚真町や安平町にも拓げるためには、保健師さんにも協力を依頼する。

2018.9.12（水）

- ・ むかわ町に 1 隊派遣中、厚真町に滞在する DMAT より派遣の希望がある情報を入手。
- ・ 安平町からは現地 OT との情報交換より、保健師が介入希望している情報を入手。
- ・ まず 2 隊目を安平町の災害対策本部へ派遣することとした。その際に、札幌溪仁会リハビリテーション病院を拠点に福祉用具の貸し出しを業者に相談し、当日中に厚真町にたちあつぷを 12 台、4 点杖を 5 個借りて、配置することが可能となった。

第4回 2018.9.13 (木)

①経過報告・今後の予定

- ・ 9/11 に第1班 以降、毎日1班は現地へ（11日むかわ、12日・13日厚真）
- ・ 9/14からは安平町にも訪問することとした。
- ・ 9/14から苫小牧東病院チームが加わるようになった（9/14～16・18・19に参加）。さらに公募で参加希望を募ったメンバーを随時加入してDoRATメンバーと共に派遣した。

②現地での活動目標

- ・ 現地リハニーズの把握、各避難所のアセスメント
- ・ 派遣チームのシフト作り（本部）
- ・ DoRATの現状に合った支援を行う。

③その他

- ・ 植苗病院（苫小牧）と宿舎の交渉中。
- ・ 福祉用具については、町にJASPAの役割を伝達してもらい、支援を仰ぐ。
- ・ 支援チームの身分保障。基本的には有給扱いが望ましい。ボランティアとなる場合は、ボランティア保険への加入をお願いする。
- ・ 費用弁済については、JMAT傘下での活動で、事務消耗品、通信機器レンタル、レンタカー、公共交通機関（自家用車のガソリン代を含む）、が弁済対象。
- ・ 帯同できる医師がいない。派遣チームに医師は必須か？道庁は責任者が医師であれば、派遣チームの職種までこだわってはいない。
- ・ 15、16、17日の3連休に、厚真、安平、むかわを対象に、各3班作って、ローラー作戦はどうか。その後は、1チームを1～2か月投入はどうか。道医も内々に了解。

第5回 2018.9.17 (日)

①今後の支援のニーズ

- ・ 3町のローラーも行った結果、今後は、毎日1班程度で良さそう。
- ・ 日赤はJRATにつないで撤退を考えていたようだが、DoRATの規模が小さいため、こちらから実際提供できる人員を伝達したほうが良い。

②OT 清水会長から

- ・ 提供ベースの話で良いのかと疑問。各避難所にどのような支援が必要な人が何人で、自宅生活中の人にそのような人がいないかも確認が必要。
- ・ 現実的に、毎日1班のDoRATでは、その確認は不可能なので、ケアマネや保健師に確認する。各町に、高齢者の情報などを提供依頼する。
- ・ むかわ町は、デイサービスの風呂が壊れ壊滅的。ヘルパーサービスは元々ない。
- ・ JMATの撤退は発災14日間後。DoRATは、もう少しやっても良いよと、道庁に言ってもらった（要確認）。
- ・ 今後、苫小牧東病院が大きな役割を果たす。情報を交換しながらだが、苫小牧東病院に

班を作ってもらい、出せないときに DoRAT が出す形が取れると良いが。

③JASPA 経由の福祉用具の扱いについて

- ・ 不明な点の確認

緊急会議於 苫小牧東病院 2018.9.18 (月)

①DoRAT が、9月20日で活動終了決定と連絡あり。

- ・ 現在、3町の保健師がニーズの掘り起し中。今後、ニーズが出てくる可能性も高そうで、地域リハビリ広域支援センターに引き継げると良いが・・・
→東胆振地域リハビリ広域支援センターは、5年前に発散的解散。
- ・ 人的に苫小牧東病院で、どの程度人が出せるか？
→3人 x 2 / 週が限度
- ・ HARP+DoRAT で特にロジ要員の経験者を考え、事務局を運営できるか？
→道庁へ電話で確認し、今後の活動については、現地のニーズが重要。障害者保健福祉課が、今後の窓口になる。
- ・ 新規事業として「地域づくりによる介護予防推進事業」を活用できないか検討したい。

第6回 2018.9.20 (水)

①DoRAT 活動終了について

- ・ 太田、清水両会長が道庁で確認し、9月20日限り。
- ・ 現在のニーズとして、厚真町はこれからが生活不活発病の懸念大きい。安平は？
- ・ むかわ・穂別は、DoRAT ニーズなさそう。

②DoRAT 撤退後の活動について

- ・ 「地域づくりによる介護予防推進事業」を DoRAT としてではなく、HARP として実施することを考えている。
- ・ 道医師会が14日以上と言っても、結局金を出すのは道庁なので、道庁に従わざるを得ない。町が良ければ、DoRAT として活動継続は可能では？
→道庁からの指示があり、DoRAT の看板は難しい。
- ・ 新規事業開始は、いつ頃になるか？
→スタートまで2週間程度必要。茨城のシルバーリハビリ体操指導士養成のイメージ。HARP としての支援の参加者は、できれば出張扱いが望ましい。
- ・ DoRAT の課題
→派遣帯同医師が足りない。
→派遣とロジを別けて募集しても良かった。今後、ロジ人材の育成が急務。1月26・27の研修会でも実施予定。

- 今度の DoRAT の活動資金
 - 道内 47 施設ある回復期リハビリ病院へ、DoRAT の活動終了の報告をしながら、活動資金の援助について要請しては？
- 札幌溪仁会リハビリテーション病院での本部機能の今後は？
 - HARP へ移行する。
- 活動費用の請求
 - 道庁へ請求している。不足分は HARP へお願いする。

IV. 派遣募集について

北海道災害リハビリテーション推進協議会 吉岡英章

【募集方法】

H30年9月11日AM9:30ころJMAT傘下での災害リハ支援の要請を受け
PT・OT・ST 各士会HPに胆振東部地震災害派遣募集案内文を掲載するとともに、各士会のML、災害リハビリテーション研修参加者へのメールにて案内文を送付して参加者を募った。
応募はGoogleフォームに会員が回答したものを集約し
応募者76名（Dr2 OT24 PT39 ST5 P01 CM5）であった。Googleフォームは回答結果が即座にスプレッドシートに反映され、インターネット環境があればブラウザ上で確認、ダウンロード、編集することが可能である。

【チーム編成】

災害支援経験者がチームに必ず1名が含まれるよう配慮し、派遣可能をメールおよび電話確認をしながらチーム編成を行った。派遣可能期間をおよそ3日として募集した際に応募者が少なかったため、1日でも応募可能として募ったところ、76名の応募を得ることができたが、チーム編成作業が困難となり、結果として継続して派遣できる人員が限られていた。

【派遣前本部業務】

派遣決定した際に所属施設宛公文書作成。派遣先および現地での具体的支援内容を伝える。
チーム内連絡方法、移動方法の確認。本部への報告書作成依頼。

【応募回答内容】

メールアドレス；職種；氏名（漢字）；しめい（ふりがな）；年齢；性別；携帯電話番号；
緊急連絡先氏名；緊急連絡先電話番号；専門分野／災害支援の経験；派遣可能期間；
所属施設名；所属施設住所；所属施設郵便番号；所属施設電話番号；所属施設ファックス番号；
公文書送付先住所；公文書送付先 役職／氏名；職場の了承； とれている 交渉中
自己責任誓約；

【まとめ】

災害支援派遣募集は短時間で人員を確保し、チーム編成しなければならないが、北海道内の被災地支援についてリハビリテーション専門職に派遣要請が出るかどうか明確ではない時点で募集を始めることができない状況であったため、6日の発災に対して11日の募集開始となった。

応募リストの中から、災害支援経験者をチームに1名以上配置し、派遣可能期間からチーム編成するにはインターネット環境・メール環境・電話設備が整っていることが必須であると

ともにチーム編成専任の本部人員が必要な業務である。胆振東部の被災地への道路状況が比較的安定しており、札幌圏から日帰りが可能であったため、チーム編成および派遣旅程が組みやすかったと考えられる。

V. 福祉用具について

北海道災害リハビリテーション推進協議会 早川康之

9月12日

むかわ地区にアセスメントで入ったチームより、生活環境整備のため、たちあっぷ使用の要請があり、道内の業者に依頼し搬入対応した。これを含め、今回の災害では、12日から13日にかけて、厚真、穂別、むかわの避難所にたちあっぷ35台、歩行器6台、歩行車1台を、道内の福祉機器販売メーカーより無償の貸出し協力をいただいた。これにより、避難所での段差補助、ベッドからの立ち上がり、自衛隊や高等学校の入浴施設利用時の段差補助など、多くの場面での高齢者などの移動対応が可能となった。なお、提供いただいた福祉用具は、現地に近い苫小牧東病院に一旦集約し、必要に応じて避難所などに配置することとした。むかわでは、避難所での問題として、段ボールベットは納入されたが設置場所が適切でないため、車いすが使えないケースがあることや、施設のトイレの使用ができず、仮設トイレが設置されたところが多く、段差への対応が必要である旨が報告された。トイレの対応については、13日に道内業者によるラップポンの納入が報告された。

一方、厚真にアセスメントで入ったチームからも、避難所での生活環境整備が急務である旨の報告があった。また、避難所の高齢者のうち、膝、腰に問題を抱えている方が多くいるため、簡易式腰仙椎装具（コルセット）30個、膝サポータ30個の配布希望が上がった。コルセット、膝サポータの供給方法についてJRAT本部からの協力は可能なのか、JRAT福祉用具WG坂井一浩（日本義肢装具士協会）氏に提供方法について打診した。本件に関して、サポータ類についてJASPAへ依頼いただいたとの連絡があった。また、福祉用具の提供については可能であるが、義肢装具については別途相談との回答をいただいた。環境整備について、公益社団法人日本義肢装具士協会北海道支部の協力依頼の了承を得た。

9月13日

12日にJRAT本部での会議に参加いただいた一般社団法人北海道作業療法士会清水会長より、福祉用具の供給について具体的な指示があった。

- (1) 北海道とDoRATが協議し、医療機関や大学等、適当な場所に福祉用具の集積所を設置する。
- (2) 厚労省老健局高齢者支援課は、北海道宛てに、福祉用具支援に関する事務連絡を送付する。
- (3) JASPAは、会員に向けて福祉用具の提供を依頼し、これをリストする。
- (4) DoRATは、各避難所の福祉用具ニーズを把握し、これを道へ報告する。

(5) 道は、上記ニーズを適宜、厚労省へ連絡する。

(6) 厚労省は、JASPA へ物資の調達と集積所への配送を依頼する。

(7) DoRAT は、集積所に届いた福祉用具を当該避難所の対象者へ提供する。

問題として、道との協働については、協定を結ぶための対応を進めている最中での発災であり、直接協働することは困難であることが挙げられた。また、福祉用具供給に手続きを含め、最短で 10 日かかることも問題として挙げられた。

9 月 14 日

厚真のサポータ類の提供について、道医師会との調整がついた。正式ルートで対応したいが、早期対応をしたいため、同時進行することとした。明日、避難所には手続き方法について説明してもらう。避難者、介護者へのサポータ、コルセットをあらためて依頼する。発送先は苫小牧東病院。サポータ提供に関しては一般社団法人義肢協会北海道支部長にも依頼を進め、了解をいただいた。JASPA からの返信を待って、どちらに対応を依頼するか決定することにした。

9 月 15 日

JRAT 福祉用具 WG 担当者より、JASPA へ依頼フォーマットを送るよう指示あり。避難所への補装具支給に関する「厚労省－北海道－DoRAT の連携体制」が整っていないようなので、別ルートでの依頼が届かないように留意することなどの指示があった。

DoRAT から JASPA 清水会長にコルセット 30 個、サポータ 30 個の提供依頼を行った。可否についての回答を待つ。

9 月 17 日

コルセット、サポータの個数をそれぞれ 15 個に変更する旨を、JASPA に連絡した。変更可能か回答を希望した。

9 月 18 日

あつまスタードームで歩行器が必要な方があり、車いすのフットサポート部分に 2 リットルのペットボトル 2 つを置き対応した。

9 月 19 日

前日の歩行器希望の方に、歩行器をお渡しし、使用方法を説明した。20 日に使用状況を確認する予定であったが、派遣中止のため、未確認。

9月20日

JASPA からコルセット、サポータ提供先についての確認連絡があった。9月19日でDoRATの活動が終了した旨を伝え、対応困難なため、キャンセルをお願いした。

以上

VI. 活動報告書

1) 9月11日(火) むかわ町

報告日 平成30年 9月11日

都道府県医師会名	北海道
記入者名(責任者)	畑原(光増)
JMAT出勤数	・医師(1名) PT(2名)
活動期間	平成30年 9月11日 ~ 平成30年 9月11日
活動場所	むかわ町
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鶴川厚生病院 リハニーズの評価依頼のため訪問。むかわ厚生病院の事務長、専属PTに、DoRATの活動についてお伝えしたところ、院内のリハビリは現状PTで対応可能とのこと。 ・ むかわ町役場 役場保健師のミーティングに合流し情報収集。 ・ 四季の館(避難所) むかわ町保健師(富山県からの支援者2名)とともに訪問し、避難所アセスメントを実施した。今後、ほかの2か所の避難所から住民の受け入れとともに、手すりや段ボールベットの配置など環境整備が必要となりそうである。
現地のニーズ(不足物資等)	<p>町内の避難所は3つ。本日は四季の館のみ訪問した。今後、むかわ中央小学校、報徳館を縮小し、四季の館に集約する予定とのこと。</p> <p>本日の情報収集と避難所アセスメントから、厚真、安平への支援も視野に入れた継続した支援が必要。</p>
課題	今後活動できるセラピストの募集を進め、手すりや段ボールベッドの配置など環境調整ができるスタッフが必要である。
次に来るJMATへの情報提供	避難所の環境調整が必要です。

2) 9月12日(水) むかわ町・厚真町

むかわ町

報告日 平成30年 9月12日

都道府県医師会名	北海道
記入者名(責任者)	小林(光増)
JMAT出動数	・医師(1名) PT(1名)、OT(1名)
活動期間	平成30年 9月12日 ~ 平成30年 9月12日
活動場所	むかわ町
活動内容	<p>○むかわ四季の館 避難者145名中、対応人数16名。</p> <p>保健師とともに避難所環境評価。避難者の生活環境の評価、避難者と援助者に普段の生活状況・現在の困りごとの聞き取り、床上生活困難者の洗い出し、生活動作に関わる環境の危険因子の洗い出しを行った。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>(具体的な対応)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 段ボールベッドが到着した際の部屋のレイアウトと導線の確認と調整 2. 生活区画全体(避難者の部屋割や動作・移動に配慮が必要な方の配置)の整理 3. 段ボールベッドやたちあっぷ適用者の洗い出し <p>○むかわ町役場 10:00 保健福祉部救護班ミーティングに参加</p>
現地のニーズ(不足物資等)	<p>○むかわ四季の館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最低でも要たちあっぷ者3人、要ベッド者1人(可能であれば+2人程度)。夜間に転倒者一人いたとのこと、詳細不明。これについて日赤PTより夜間のラップポンの設置も検討したらどうか提案があったが、今回は避難者の配置やダンボールベッドで対応可能な可能性もあり、現在の設置予定は無い。 ・研修室A/B 30人: 介助・見守り必要な方がいる。 ・定期的な運動プログラムのニーズがある → とりあえず赤十字と道保健師が対応。JRATにも要請があれば応じられるように準備。なるべく住民主体で実施できるように。

	<ul style="list-style-type: none"> ・その他：四季の館は人も物資も環境も充実しており、避難者も比較的元気な方が多い。最初のやり方だけ伝えたら自分たちでの運営が可能と思われる。話がしたい、という避難者の方の声あり。可能であれば集いの場づくりも検討。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・役場職員の疲弊目立つ → 負担が少ないような介入を心掛ける。 ・たちあっぷ、段ボールベッドが必要な方がいる。 ・30人程度、介助・見守りが必要な方がいる。 ・生活不活発病予防のため、定期的な運動プログラムが必要
次に来るJMATへの情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の際には、10:00からむかわ町役場で開かれる救護班ミーティングには参加したほうが良い ・1階研修室 A/B は密度が高く要援助者が多い→移動困難者・高齢者（段ボールベッド）部屋に統一する方向で動いてください ※添付のレイアウト図参照 ・不明団体を見かけて、現場で連絡を取りたいときは下記へ連絡 ①保健福祉部 ②むかわ町役場 ・避難所では赤いベストの人が救護班、聞きたいことがあるときは声をかける ・役場の地元保健師の疲労は高いと見受けられます。相談事は砺波市の応援保健師と話し合ってからの方がよいかもしれません。

厚真町

報告日 平成30年 9月12日

都道府県医師会名	北海道
記入者名(責任者)	井上(横串)
JMAT出動数	・医師(1名) ・看護師(1名)、PT(1名)
活動期間	平成30年 9月12日 ~ 平成30年 9月12日
活動場所	厚真町
活動内容	<p>・厚真福祉センター ゆくり 個別対応人数6名 ゆくり内の避難者の様子で福祉用具の必要そうな方を紹介。避難所の様子確認。</p> <p>毎日の会議の参加(日赤部隊会議の見学・全体会議の参加と新たな部隊としてのご挨拶)</p> <p>たちあっぷの配送依頼したものを12台と4点杖をおあずけした</p>
現地のニーズ(不足物資等)	<p>・24時間でヘルパー協会のスタッフが入っており見守りや避難所の方々のケアをお手伝いしてくれており、保健師がかなり疲弊している中、避難者の状況をかなり詳しく把握されている様子だった。</p> <p>・現地の方々は、避難所は高齢者が多く、介入が必要そうな方が多い。</p> <p>・若い方々は日々早朝から日没まで片づけや仕事に追われており、疲弊が強く、夜の健康相談や評価を支援として求められている。避難所によっては診療を受けたほうが良い方もいる様子。</p> <p>・高齢者は転倒する方、認知症で徘徊する方が多く、訪問した日も二ブレスをつけて動けず車いすを使っているなどされている方、杖の代わりにストックを貸してもらうなどもあった。</p> <p>・日々夜間の気温がさがってきて、暖房も開始してきたので、上気道感染の症状の方が増えてきた。感染対策が必要となってきた。加湿などのニーズもあり。</p> <p>・ゆくりは段ボールベッドが設置されており、仕切りなども考慮、認知症の方などは座敷スペースに集められ、ヘルパーチームが見守りもされている。棒体操などもヘルパーが準備してくれていた。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレはまだ仮設が主体、施設内はポータブルにビニールを入れて使用。足の悪い方が主に使用。本日よりラップポンが入る予定、(ほかの避難所はすでに配布済みの箇所も) ・とにかく、避難者の身動き取れて日中いない方たちの疲弊、保健師たちの疲弊が強く。DPAT だけの心の支援では難しいのではという声もあるほど。
<p style="text-align: center;">課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難者対応をされている役場スタッフの方の疲労が著しい。 ・避難者には高齢者が多い。生活不活発病への介入が必要。若い方々は日中外出しており、夜間に健康相談ができる所がない。 ・高齢者の方は、転倒する方、転倒し車いすの方、徘徊する方がいる。杖がなくストックを使用している方がいる。 ・夜間、気温が下がってきており、感染対策が必要。
<p style="text-align: center;">次に来るJMATへの情報提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1 3日は8時に訪問したちあっぷの設置や会議の参加等行いアセスメントを行う予定、他の避難所の状況も確認する。 ・福祉用具のニーズがとても高いが、避難所に保管は難しいので、中継地点の設置等を早急に検討依頼したい。 ・他にもシルバーカーや歩行器の必要性は避難所利用者でおられ、福祉用具の確認を調整している。さらに他の避難所を回りアセスメントすることで必要となる用具が出てくると思われ、福祉用具の準備を JRAT に依頼できるようにしていくのかも検討必要。 <p>高齢者が多く、ひざや腰が悪い方が多い。膝のサポーターや腰のコルセットも必要と思われる</p>

3) 9月13日(木) 厚真町

報告日

平成30年 9月14日

都道府県医師会名	北海道			
記入者名(責任者)	工藤(光増)			
JMAT出動数	・医師(1名) PT(3名)			
活動期間	平成30年 9月13日 ~ 平成30年 9月13日			
活動場所	厚真町			
	訪問場所(避難所)	訪問人数	対応人数(集団)	対応人数(個別)
	むかわ町役場	1		保健師打ち合わせ 救護班ミーティング ※1
	むかわ/四季の館	1	避難者 120人 ※2	避難者の個別対応なし
	厚真町/ゆくり	3		
	厚真町/厚南会館	2		
	厚真町/厚真中央小学校	2		
	厚真町/厚真スポーツセンター	2		
	厚真町/生活支援ハウスともいき	2		
	※1 役場職員(保健福祉部 保健師他)、振興局職員(保健師他)、避難所運営職員(むかわ町役場 課長・保健師他)、富山県砺波市職員(保健師)、日赤スタッフ、四季の館職員 ※2 避難所収容人数120名程度;避難者は日中自宅の片づけ、仕事などに出かけているため2割くらいが避難所にいる状況は変わらず ※3 厚真町の避難所は何か所か水道が開通			
活動内容	むかわ町/役場 保健師と打合せ むかわ町/四季の館 段ボールベッド搬入に伴う区画整理の対応 厚真町/ゆくり たちあっぷ設置 1名 2か所 厚真町/自衛隊風呂 たちあっぷ設置 ゆくり:2か所 厚南会館:1か所 厚真町/厚南会館 たちあっぷ設置 厚真町/厚真中央小学校 厚真町保健師より聞き取り			

	<p>厚真町/厚真スポーツセンター 災害派遣ナースより聞き取り</p> <p>厚真町/生活支援ハウスともいき 担当者より聞き取り</p>
<p>現地のニーズ(不足物資等)</p>	<p>深部静脈血栓症予防 (13 日夜日赤救護班が車中泊を調査)</p> <p>避難所の環境整備</p> <p>服薬管理確認 (持病悪化を予防するため)</p> <p>メンタルケア</p>
<p>課題</p>	<p>避難所を巡回する保健師の情報が対策本部にまで伝わっていないので、情報共有する時間を作る。</p> <p>支援を遠慮する要支援者が見受けられるので声掛けを行う。</p>
<p>次に来るJMATへの情報提供</p>	<p>日赤救護班が車中泊調査を実施。深部静脈血栓症予防に力を入れてほしいと要望あり。</p> <p>入口の環境整備が行われていないので調査、対応</p> <p>設置したたちあっぷの評価</p>

4) 9月14日(金) 厚真町・安平町・むかわ町・穂別町

厚真町・安平町

報告日 平成30年 9月14日

都道府県医師会名	北海道			
記入者名(責任者)	井上(舟木)			
JMAT出動数	・医師(1名) 看護師(2名)、PT(2名)、OT(1名)			
活動期間	平成30年 9月14日 ~ 平成30年 9月14日			
活動場所	厚真町・安平町			
	訪問場所(避難所)	訪問人数	対応人数(集団)	対応人数(個別)
	厚真福祉センター	6		3
	早来町民センター	6		2
	追分公民館	6		2
	花若若草会館	4		
	青葉会館	2		
	<p>特記</p> <p>早来町にある安平災害対策本部に挨拶を行い安平でも活動を開始。</p> <p>以後避難所は朝、立ち寄り不要だが、訪問終了後は必ず対策本部に立ち寄り情報提供。時間があれば16時からの会議に参加可能とのこと。</p>			
活動内容	<p>※患者数、主な疾病、後発チームへの助言等をご記入下さい。</p> <p>厚真町/胆振東部3町医療救護保険調整本部：会議参加</p> <p>安平町/早来町庁舎内の安平町災害対策本部</p> <p>安平町/追分公民館</p> <p>安平町/花園若草会館・青葉会館</p> <p>早来町民センター/環境調整・福祉用具の選定</p> <p>厚真町/ゆくり たちあっぷ設置：1か所</p> <p>厚真町/胆振東部3町医療救護保険調整本部</p>			
現地のニーズ(不足物資等)	<p>避難所の環境整備</p> <p>活動が落ちた避難者への福祉用具の提案(歩行器・杖)</p> <p>立ち上がり不安定な転倒後避難者へのたちあっぷ設置</p> <p>深部静脈血栓症予防を考慮した、避難所体操の提案</p>			
課題	<p>避難所の環境整備は保健師と調整可となってきたが、避難所によっては介入を他団体で断られている場所があり、避難所</p>			

	<p>のアセスメントに入る方法を他の医療職と調整することが必要。</p>
<p>次に来るJMATへの情報提供</p>	<p>DVT予防のためにDVTリスクが否定されると判断される方たちへの運動習慣の提案と、避難所運営側が今後実践できるようなデバイスの紹介。(パンフレットなど)</p> <p>シルバーカーか歩行器が必要そうな方への福祉用具引き渡しと評価</p> <p>設置したたちあっふの継続評価や他の福祉用具の配置入っていない避難所のアセスメント</p>

むかわ町・穂別町

報告日

平成30年 9月15日

都道府県医師会名	北海道			
記入者名(責任者)	横部(光増)			
JMAT出勤数	・医師(1名) PT(2名)			
活動期間	平成30年 9月15日 ~ 平成30年 9月15日			
活動場所	むかわ町・穂別町			
	訪問場所(避難所)	訪問人数	対応人数(集団)	対応人数(個別)
	むかわ町役場穂別支所 隣 穂別町民センター	3	20	5
	四季の館	3	127	0
活動内容	<p>※患者数、主な疾病、後発チームへの助言等をご記入下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・むかわ町役場穂別支所 隣 穂別町民センター 個別対応5名 ・四季の館 個別対応なし。 <p>(活動内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四季の館は保健師不在のため、施設内および自衛隊入浴場を視察。自衛隊入浴では高齢者が自ら入浴し易くなる様な補助器具は無く、現時点では浴槽に入るためには介助の手を必要とする。別途、福祉用具を現場に持ち込むことは自衛隊より許可をいただくことは出来た。 ・避難所(穂別町民センター)内で生活されている町民、とくに1階に住まわれ身体運動機能が低い方々への現状の生活問題の聴取/生活環境の評価/環境改善策の提案 ・特に段ボールベッドの端に立ててある塀を現地にある物で補強し、立ち上がったからの伝い歩きに手をつく場所として歩行移動する際の安定性を向上させることが出来た。 			
現地のニーズ(不足物資等)	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴補助具 ・保健師や自治会ボランティアへ、体操の伝達 			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今すぐ対応しなければならない町民はいないが、避難生活が長期化すると身体運動機能が低下する懸念がある。 ・自衛隊入浴で高齢者が入浴しやすい福祉用具を手配する。 			

次に来るJMATへの
情報提供

○生活不活発病予防体操の指導（保健師／自治会ボランティアの方へ向けて）

避難所には、とくに大きな介助を要す町民はおらず“活動性がやや低いはまだ動ける”方が多くいらっしゃいます。避難生活が長引くにつれて徐々に身体運動機能が低下し、生活の自立性が失われていくことが懸念されました。生活不活発病を予防するための体操指導をする必要があると考えられます。避難所には保健師の方や自治会ボランティアの方々が数名で入りされているため、その方々を中心に生活不活発病予防体操のノウハウを伝達し、避難生活を送られている方々へ定期的な運動週間を提供していただく体制作りにご協力いただく様、呼びかけをお願いします。

○四季の館での自衛隊入浴には高齢者が入浴し易く出来る様な福祉用具の貸し出しが必要かと思えます。自衛隊の担当者の方に問い合わせし、持ち込みの許可はいただいています。

5) 9月15日(土) 厚真町・安平町

厚真町

報告日 平成30年 9月15日

都道府県医師会名	北海道			
記入者名(責任者)	寺川(光増)			
JMAT出動数	・医師(1名) PT(2名)、OT(1名)			
活動期間	平成30年 9月15日 ~ 平成30年9月15日			
活動場所	厚真町			
	訪問場所(避難所)	訪問人数	対応人数(集団)	対応人数(個別)
	厚真総合ケアセンターゆくり	3	3	0
	あつまスタードーム	3	0	3
	厚真中学校	3	0	3
	上厚真小学校	3	0	2
	厚南会館	3	0	2
活動内容	<p>特記：あつまスタードームについては、厚真町の地域包括支援センター看護師に同行して頂き介入することが出来た。スタードームでは、災害ナースを通すこと。災害ナースには必要があればDORAT本部に連絡するように依頼した。</p> <p>※患者数、主な疾病、後発チームへの助言等をご記入下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚真総合ケアセンターゆくり 個別対応なし ・あつまスタードーム 個別対応3名 ・厚真中学校 個別対応3名 ・上厚真小学校 個別対応2名 ・厚南会館 個別対応2名 <p>*各5 避難所の環境アセスメント・チェックシートの作成 個別対応、福祉用具のニーズ調査 たちあっぷ シルバーカー</p> <p>2日前に処方したたちあっぷのモニタリグを行う。</p>			
現地のニーズ(不足物資等)	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで個別対応してきた方のチェックくらいで良い印象。 ・シルバーカーの問い合わせにまだ対応できていない。 			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・出動日時の早期決定と伝達 準備物品の明示 道路の通行止めなど早い情報提供 ・蓄積したデータの開示・共有 			

	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバーカーを明日、苫小牧東チームが明日持ってきてスポーツセンターへ運ぶ。
<p>次に来るJMATへの情報提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の陥没による通行止め発生のため、迂回が必要な経路がある。事前に確認もしくは、ナビを確認しながら移動すること。 ・外国人不審者の発生により各避難所の受付の警戒が厳に成っている様にしたので、所属・身分・氏名・任務を丁寧かつ正しく伝えること。 ・避難者に支援疲れがみえるので、声掛けは必要以上に行わない事。 ・午前中、宮城県保健師より、厚真中央小学校に介入依頼あり。

安平町

報告日

平成30年 9月15日

都道府県医師会名	北海道			
記入者名(責任者)	森田(橋本)			
JMAT出動数	・医師(1名) PT(1名)、OT(1名)			
活動期間	平成30年 9月15日 ~ 平成30年 9月15日			
活動場所	安平町			
	訪問場所(避難所)	訪問人数	対応人数(集団)	対応人数(個別)
	追分公民館	3	避難者 103 ※1	1
	安平公民館	3	避難者 14	2
	安平の郷	3	入居者 15	
	早来町民センター	4	避難者 84 (登録 135) ※1	1
	早来町スポーツセンター	4	避難者 28	
活動内容	<p>特記</p> <p>※1 本日は土曜日なのもあり、一部避難者は日中の自宅片付けや仕事等で外出している方が多く見受けられた。残られているのは高齢者および子供が中心。</p>			
	<p>※患者数、主な疾病、後発チームへの助言等をご記入下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追分公民館 個別対応 1名 ・安平公民館 個別対応 2名 ・安平の郷 個別対応なし ・早来町民センター 個別対応 1名 ・早来町スポーツセンター 個別対応なし <p>(活動内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安平町役場での昨夕の連絡会では特別な連絡事項は無かったとの回答ある。 ・追分公民会館は、前日に伺った高齢者夫婦へ体調を含め再度確認。妻が自宅の片付けへ行きたいが、要介護状態の夫を置いて行くのが心配だと伺った。 ・安平町公民会館にて 			

	<p>①独居女性。一人で被災され、着の身着のまま避難。入浴できていないと話されていた。日赤チームの巡回と重なったため、調整依頼した。</p> <p>②独居女性。自宅での片付けで転倒し右肋骨骨折し王子総合病院へ受診されバストバンドと鎮痛剤を処方され療養中であった。徐々に右上肢の可動域が広まったと話されていた。既に日赤チームのフォローがあり、巡回と重なり引き継いだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安平の郷、安平町公民館訪問中に公民館の同職員から町内のGHでDVT疑いの入居者に対し訪問を希望されているとの相談あり。対策本部へ連絡を取り、そのまま現状確認の指示を受け訪問。結果、すでに今朝、札幌中央病院へ搬送されたとのこと。他の入居者は4日間の避難所生活で腰背部の筋肉痛などの訴えはあるものの、体調不良者はいなかった。再度、対策本部へその旨報告。 ・早来町民センター。昨日の右膝損傷の被災者を訪問。歩行状態は機能と比べ改善しているが、段ボールベッドからの立ち上がりがしづらいとの訴えあり。たちあっぷと歩行器（JRAT 貸与のもの）を設置。立ち上がり、歩行状態を確認。 ・早来スポーツセンター。乳幼児～若年層が避難されているが、現在体調不良者がおらず、感染も起きていないとのこと。 ・安平町 DHEAT。追分公民館の要介護者見守り支援、早来町民センターの食事用プレートまたはテーブルについて要望の声が聞かれたことを併せて報告した。
<p>現地のニーズ(不足物資等)</p>	<p>食事用プレートかテーブルの要望あり</p>
<p>課題</p>	
<p>次に来るJMATへの情報提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たちあっぷを設置した箇所の使用状況のチェック ・歩行器の使用状況をチェック

6) 9月16日(日) むかわ町・安平町

むかわ町

報告日 平成30年 9月 16日

都道府県医師会名	北海道
記入者名(責任者)	筋内(光増)
JMAT出動数	・医師(1名) PT(3名)、OT(1名)
活動期間	平成30年 9月16日 ~ 平成30年 9月16日
活動場所	むかわ町
活動内容	<p>※患者数、主な疾病、後発チームへの助言等をご記入下さい。</p> <p>四季の館 集団対応 127名 個別対応 0名 穂別住民センター 集団対応 39名 個別対応 1名</p> <p>活動内容</p> <p>①デイサービスたんぽぽ利用者の入浴が施設利用困難のため、鶴川高校野球部寮(三気塾)の入浴設備を活用し9月18日から入浴サービス開始すること。バスグリップやシャワーチェアー、入浴台を設置し保健師に動作介助方法などを指導した。また、脱衣所入口の段差が21cmであり、段差昇降困難な方のためにたちあっぷを設置した。玄関入口に20cmの段差があり、車椅子利用者はキャスターアップ介助にて移動できるが、歩行で移動される方が昇降動作しやすいように、500mlペットボトルが入ったままの段ボールを固定し手で支持できるようにした。</p> <p>②介助が必要な方に対して、自衛隊が設置したお風呂が使用できるように、たちあっぷを一台提供した。提供場所は脱衣所もしくは浴室とし、看護師や介助者から見て個別に適切な場所で使用していただけるようにした。</p> <p>③簡易ベッドに間仕切りをしていたが、起き上がる時に足を下ろすスペースがないとのこと。周囲のベッドを少し移動させ、間仕切りの調整をしてスペースを確保した。</p> <p>④居住スペース入口で靴着脱時に掴まれるものがなく、誤って引き戸の取っ手を掴まってしまったときに転倒することを予防するため、S字フックと紐を使用し引き戸が動かないようにした。</p>

<p>現地のニーズ(不足物資等)</p>	<p>入浴時の段差解消</p>
<p>課題</p>	<p>町内の避難所は統合され、避難者も減少傾向にありますが、依然高齢者は多く避難所生活が長くなるにつれて新たなニーズが出る可能性もあります。今後も訪問頻度は検討が必要ですが、継続してミーティングに参加し、直接ニーズを聞き出す動きが必要だと思います。</p>
<p>次に来るJMATへの情報提供</p>	<p>ミーティングにて、日赤は DVT リスク評価とスクリーニングを実施しており、9月17日に旭川医大によるエコー検査を実施する予定。また、心のケアチームも活動を開始しており、医療的支援体制は整備されてきています。避難所になっている四季の館で勤務されている健康運動指導士の方が、生活不活発発病予防に軽い体操を実施しており、運動内容についての助言を求められる可能性があります。</p>

安平町

報告日 平成30年 9月16日

都道府県医師会名	北海道			
記入者名(責任者)	森田(橋本)			
JMAT出動数	・医師(1名) 看護師(1名)、PT(1名)、OT(1名)			
活動期間	平成30年 9月16日 ~ 平成30年 9月16日			
活動場所	安平町			
	訪問場所(避難所)	訪問人数	対応人数(集団)	対応人数(個別)
	追分公民館	4	避難者 103 ※1	3
	安平公民館	4	避難者 14	
	早来町民センター	4	避難者 84(登録135) ※1	1
	追分公民館	3	避難者 103 ※1	1
	<p>特記</p> <p>※1 一部避難者は日中の自宅片付けや仕事等で外出している方が多く見受けられた。残られているのは高齢者および子供が中心。</p>			
活動内容	<p>※患者数、主な疾病、後発チームへの助言等をご記入下さい。</p> <p>追分公民館 集団対応 103名 個別対応 3名</p> <p>安平公民館 集団対応 14名</p> <p>早来町民センター 集団対応 84名 個別対応 1名</p> <p>追分公民館 集団対応 103名 個別対応 1名</p> <p>●80代 女性。保健師より個別相談の依頼あり。日中は臥床傾向で不活発となっている。日赤の診察にて弾性ストッキング装着の指示があったとのこと。水分摂取も1日ペットボトル1~2本程度。移動評価時、独歩では左右へのふらつきもあり。歩行器使用することで歩行も安定し、本人も歩き易いとのこと。保健師と相談し、早来の町民センターに余っている歩行器を移動できないかを相談し、対応を検討することとなる。</p>			

	<p>●80代 女性 日赤より弾性ストッキングはくように指示あり、着用していたがきつく、保健師とも相談し、自己判断で装着をやめた。浮腫は本人および保健師からは朝よりも軽減しているとのこと。橋本医師の診察にて心不全も疑われるのでフォロー先医療機関での経過観察が必要とのこと。</p> <p>●80代男性 前日に伺った高齢者夫婦へ体調を含め再度確認。妻が自宅の片付けへ行きたいが、要介護状態の夫を置いて行くのが心配だと伺った本日は息子さんが来られ対応ができたとのこと。保健師からはむせこみがやはり気になるとのこと。</p> <p>●90代 女性 独居の方は息子さんが来られ、自宅へと帰られた。避難所の館長が隣家の為、定期的に訪問されるとのこと。</p> <p>●80代 女性 歩行器は問題なく使用できている。膝の痛みも落ち着いてきている様子。歩行器の導入に関しては本人より娘さんに聞かないとわからないとすることで保健師より話をするもしくはメモを残すようにするとのこと。</p>
<p>現地のニーズ(不足物資等)</p>	<p>歩行器</p>
<p>課題</p>	
<p>次に来るJMATへの情報提供</p>	<p>・追分公民館 歩行器使用者の様子確認 浮腫の状態確認 DCATの体操は本日にて終了し、公民館に避難されている人が中心で行うようになりました</p> <p>・町民センター 不活発者が出ていないかの確認をお願い致します。災害支援ナースおよび保健師で情報を把握しております。</p>

7) 9月17日(月) 厚真町・安平町・むかわ町

厚真町

報告日 平成30年 9月17日

都道府県医師会名	北海道			
記入者名(責任者)	井上(光増)			
JMAT出動数	・医師(1名) 看護師(1名)、PT(3名)			
活動期間	平成30年 9月17日 ~ 平成30年 9月17日			
活動場所	厚真町			
	訪問場所(避難所)	訪問 人数	対応人数 (集団)	対応人数 (個別)
	あつまスタードーム	4		2
	厚真中央小学校	1		1
	上厚真小学校	3		
	ルーラルマナビィハウス	3		
	厚真中央小学校	3		
	厚真中学校	3		1
	ゆくり	3		
活動内容	<p>※患者数、主な疾病、後発チームへの助言等をご記入下さい。</p> <p>長岡赤十字病院スタッフに帯同。</p> <p><あつまスタードームスポーツセンター>:介入4名 昨日ピックアップされた方々と問診。</p> <p>①自宅で杖歩行し、自宅で毎日運動し、デイサービスに週2回利用していた女性。避難所で日課の運動に制限があり運動が出来ていない状況。トイレまで移動する際に杖を使用しているが、杖歩行だと転倒危険性あり、歩行器を貸し使用方法を指導した。</p> <p>②認知低下で服薬注意の女性。独居で身寄り少ない。現時点では身体機能は問題ないが声掛けしないと座っている。今後生活不活発病のリスクあり。</p> <p>③自宅でも歩行器使用の女性。ノルディックウォークの杖あり、歩行促され、体育館歩行距離延長している。歩行や体操促しで関与する必要あり。災害ナースに歩行練習依頼</p>			

	<p>した。</p> <p>④認知力低下疑いの女性、トイレから戻る際に迷子になることあり日中座る時間が長い。シルバーカー自立（家族の購入）、今後生活不活発懸念。</p> <p><厚真中央小学校>：介入1名 ベッドを段ボールベッドに変更した男性、立ち上がり良好。歩行車利用し、日中歩いている。20日に帰宅予定。</p> <p><上厚真小学校> 避難者は若い方が多く、高齢夫婦は外出中。歩行可能であり、今後ニーズがあれば連絡いただくようにした。また生活不活発発病予防として体操資料を設置した。高齢夫婦外出時、靴着脱に困難さがあるようであれば椅子を設置して頂くよう助言した。</p> <p><ルーラルマナビィハウス> 自宅で生活し物資を受け取りに来る場所で避難所ではない場所。自治体やボランティアが中心に炊き出しをされている。高齢でデイサービスを利用できていない高齢者がいたが、別地区でデイサービスが再開されればそちらを利用するとのこと。</p> <p><厚真中央小学校> 午前中に鈴木 PT が実施した環境整備にて問題なし。</p> <p><厚真中学校> むちうちで右上肢がしびれている男性。三角巾を使用して過ごしているが、首の後ろが痛くなってきた。他動で右肩関節屈曲 90 度以上可動するが、90 度保持は困難。左上肢もしびれるようになってきたとのことで、肩甲骨の運動を指導した。 避難所運営担当者は、「医療的知識がなく情報提供が難しい」とのことなので、リハニーズあれば保健師と連絡を取り、対応するむね伝えた。</p>
<p>現地のニーズ(不足物資等)</p>	<p>物資として DoRAT の貸し出せる歩行器なしとなった。以後の調整必要。</p>

<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨日厚真町を担当したスタッフが一名しかおらず、細かな情報共有が難しいため、連日支援に参加できるスタッフがいた時には、なるべく訪問者は同じ場所に派遣していただきたい。同じ場所に派遣できない場合は、申し送りが必要。 ・JRAT の名刺や連絡先が分かるものが必要。
<p>次に来るJMATへの情報提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツセンター：町の職員にスポーツセンターに行く旨伝えてから行ってください。 ① 明日、集団体操実施を約束しています。対象6名。 ② 本日提示した歩行器使用について確認してください。ブレーキ使用法など。 ③ 災害支援ナースに、今後の JRAT 対応について説明してください。 ・ゆくり和室は活動度の低い方が多いので、ニーズを確認してみてください。ヘルパーさんが常駐しています。 ・4時から保健師ミーティングに参加し、ニーズを確認してください。本部横のソファのところで行っています。

安平町

報告日 平成30年 9月17日

都道府県医師会名	北海道		
記入者名(責任者)	井上(桂)		
JMAT出動数	・医師(1名) 看護師(1名)、PT(1名)、OT(2名)		
活動期間	平成30年 9月17日 ~ 平成30年 9月17日		
活動場所	安平町		
	訪問場所(避難所)	訪問人数	対応人数(集団)
	①追分公民館	4	3
	②早来町民センター	4	5
③早来スポーツセンター	4	0	
活動内容	<p>①追分公民館</p> <p>DCAT(老人健康協会)の体操は昨日で終わった。今日より、住民が交代して行っている。朝、9時15分と午後に行っているとのこと。</p> <p>(1)歩行器のチェックに伺ったが、活動性はない方。生活不活発病が懸念される。難聴あり。腰が曲がっている。</p> <p>→本人の趣味の編み物をベッド上で行うことを促し、次に1階で行うことを促してみる。編み物をするので、気持ち元気になっているか確認。→生活不活発病が心配。家の人が時々、家に本人を連れていくことで気持ちが変わり、家に帰るための体を毎日動かそうという気持ちになってくれたら。看護師から家族に伝えてもらう。</p> <p>(2)前腕支持付歩行器使用の方。多発性脳梗塞からくるパーキンソン病。嚥下に問題ありの方。飲み込みは、1階ホールで水を飲んでいる時に、一口飲み込んだ水が口から少しずつ流れており、本人がコップでその水を受けている。左向き飲み込みを促したら、口から水が飛び出てしまった。顎を突き出して座るので、水分がのどの奥に行かない。喉の奥に行けば、飲み込むことは可能。かむ動きはあるが、食事は時間がかかりそう。歯科医師会のチームよりトロミ剤が届く。</p> <p>→飲み込みがスムーズになるように、食事前にスプーン一杯のトロミ剤をお味噌汁に入れてトロミをつける。行ってか</p>		

ら、便秘・排尿回数も減少しており寝汗がひどく脱水の危険性高い

→口腔機能の左右差もあり、ST にポジショニングや左向き嚥下（左側の動きが悪いので左向きになることで右側の通りをよくすること、食形態などを評価してもらう。妻の介護疲れが著しい。「医療機関に入院してもらおうと思い連れて行ったが、入院できなかった。」と妻は話す）、妻の状況を考慮して、ST より苫小牧東病院を受診（必要なVFなどの検査も）することを促してもらう。

（3）浮腫の強い女性。室内履きで足がパンパンになっていた。室内履きを履かないようにと言われた。昨日、弟が来て出かけたが、帰りに階段で転んで左膝をケガした。自分のベッドからホールのベンチまで歩いてきて、ベンチで休憩してからトイレに行く。

一年くらい前から尿漏れがある。トイレに行くと間に合わない。尿取りパッドを使っている。

→浮腫の原因。DM？心臓疾患？静脈瘤？腎不全？上肢は浮腫がない。血圧は高くない。水を飲んでいない。

→尿漏れ。時間排泄をしてはどうか。尿漏れしない体操を伝える。

②安平町民センター

（1）高齢夫婦。

・たちあつぷは、二人の並んでいる段ボールベッドの間においてあり、ちょうどよい場所にあるのでお互いに立ち上がりがしやすくなった。

・歩行器がない時はトイレに行くぐらいしか動かなかったが、歩行器が来てから、あちこちに遊びに行くようになった。

→歩行器の値段を聞いていたが、3万円強する。要介護1か2なので、介護保険でレンタルすると良いと伝える。

（2）足のむくみ強い方。CPAP 使用している。今日、自動運動するのは忘れたと話していたので、災害支援Ns. に自動運動を促してもらう。夜間寝る時は、弾性包帯を使用しているがストッキングを注文しているので、もう少しで届いたあと装着。

（3）左肩関節の亜脱臼で地震の時に受傷し、脱臼して2～

	<p>3日してから整復師、3週間固定しなければならない。バンドと三角巾をしている方。両手動作ができないが、経過良好である。</p> <p>(4) リウマチのかた。脇を押さえながら、苦しそうに咳をしている。リウマチなので免疫抑制剤を飲んでいるからか？肋骨の骨折が懸念される。足の指の変形が強く、スポンジや綿を入れている。</p> <p>→足の指の状態を確認できなかったなので、次回確認する。履きなれた靴があるのがよい。指と指がぶつかる際の痛みは、クッションやスポンジを入れて当たりを弱くする。</p> <p>③安平町災害対策本部</p> <p>追分公民館の飲み込みの問題がある方に ST 介入について。安平町の ST に見てもらえないか？と聞いたが取り次いでくださるようすはない。DoRAT で ST 隊員にみてもらった方を進めてよいか？と聞くと、必要と判断するならそうした方がいいと賛同される。</p> <p>各避難所の一人一人の様子は把握している。疲れもうかがえる。</p> <p>*そのほか、早来町スポーツセンターに伺う。前は、高齢者と子どもを一緒に避難所にしていたが、こどもがうるさいと苦情があり、スポーツセンターにこども家族を移した。こちらにも段ボールベットがある。子どもたちは元気だが、不安定なく過ごせているとのこと。</p> <p>*花園若草会館、青葉会館、安平公民会館、に電話で、ここ数日は訪問していないので、最近生活不活発病で気になる方はいませんか？と問い合わせたところ、どこの避難所もみなさん出かけていてほとんどいない、不活発病で気になる方はいません、という回答だったので訪問しなかった。今度、何か気になる人がいれば連絡をいただくこととした。</p> <p>*遠浅会館は、閉鎖された。</p>
<p>現地のニーズ(不足物資等)</p>	<p>飲み込みに問題がある方への介入がなかなかできない。DoRAT で ST を派遣できないか調整が必要</p>

<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リハ機器、歩行器、シルバーカーなど迅速に貸与できるシステムがあると良いと思う。 ・避難所より、いろんな団体がバラバラ来るのは対応が大変なため、まとめてきてほしいと要望があったことから、日赤チームと一緒に行動することとなった。その方が、避難所の負担が軽減され、避難所の中に入るときもスムーズであった。他チームと入ることで互いの役割も理解できて良いのではないか。
<p>次に来るJMATへの情報提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青葉会館、花園若草会館、安平公民館、安平町スポーツセンターは、先方より連絡があったら訪問することで良いと思われる。 ①追分公民会館 <ul style="list-style-type: none"> (1) 歩行器の使用状況を確認してほしい女性。生活不活発病への懸念があり、あみもの等で活動性を高めて行ければと思います。 (2) 嚥下困難な方。一度 ST 評価を希望。奥さんが負担にならなく、飲み込みやすい方法を伝えてほしい。可能なら、苫小牧東病院を受診し VF の検討も必要。 (3) 尿漏れがある方について。時間排泄を促す提案。また、尿もれ予防の体操を伝えてほしい。 ②町民センター <ul style="list-style-type: none"> 災害支援ナースより問い合わせあり。訪問するとき、災害支援ナースに連絡をしてほしいとのこと。9月16日～20日まで町民センターにいますので、連絡をしてから訪問する。 (1) 足のむくみ強い方、自動運動できているか確認。今まで弾性包帯であったが、ストッキングが納品されたらストッキングを促す。 (2) 肩の亜脱臼の方、経過観察。 (3) リウマチの方、足趾の変形が強いので、足趾の状況を確認。スポンジなどを使って、指と指のあたりを柔らかくする。他の方法があれば検討してもよいです。

むかわ町

報告日 平成30年 9月17日

都道府県医師会名	北海道
記入者名(責任者)	小林(桂)
JMAT出動数	・医師(1名) PT(1名)、OT(2名)
活動期間	平成30年 9月17日 ~ 平成30年 9月17日
活動場所	むかわ町
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ● むかわ四季の館 避難者 124 名 たちあつぷの数のチェック 3 台無記名 No1/3, No2/3. No3/3→不要になったらむかわ町役場へ返却、たちあつぷ使用者へ使用状況の確認、たちあつぷ予備をむかわ町役場保健師に引き継ぎ ● 鹿沼マナビィハウス 避難者数 18 名 日赤との協働。マナビィハウスにて日赤チーム、AMDA と共に避難所の状況を確認した。厚真町の施設ではあるが、現在までに JRAT では介入をしていないとのこと。女性(80代);運動を最近していないとのことで、運動紹介の用紙を紹介した。 男性(60代);眼科に行けなかったので目を見てほしいとの要請があり、浦木医師が診察した。左目は網膜剥離。右目も網膜剥離予備軍であるとのこと。手術適応レベルのためできるだけ早期の受診を促すも、苫小牧までの交通の面で、なかなか難しいとのこと。厚真町保健師に情報を提供することとする。当初日赤から要確認として挙げられていた左片麻痺の男性は、会うことができなかったが、地震以前からの生活が続けられている様子であり、本日の介入は実施しなかった。 ● 穂別総合支所・穂別町民センター 避難者数 39 人 避難者の方の話を聞く、避難者や保健師から生活状況の聞き取り ● 鶴川高校 ※浴室を避難者に開放 以前設置した浴室の手すり等の福祉用具のチェック、貸し出したちあつぷの数のチェック 2 台矢崎工業 No. 4 No. 5→不要になったらむかわ町役場へ返却

<p>現地のニーズ(不足物資等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 穂別総合支所・穂別町民センター 避難生活の長期化による被災者間のストレス、日中の生活リズムの平坦化が今後のリスクとなり得る。なお、役場職員も心的ストレスを感じ始めている。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・穂別総合支所・町民センターでは、人数的に多い支援者が避難者へ過剰に支援している傾向があり、避難者がやや気疲れ、支援され疲れをしている発言があった。支援の需要と供給のバランスの悪さ、生活のメリハリや役割、活動や運動の機会に影響していることもあるよう。 ・連日活動するセラピストはなるべく活動先は一緒の方がよいのではないか ・活動隊から本部への提案事項などの意見のリスニングが必要 ・各活動隊の現場での活動内容の共有が必要。現地本部がない状況で複数隊で活動するときは、スタートとゴールを一か所にして活動を展開するなどの工夫を。移動は大変かもしれないが、お互いの活動の状況を共有し把握しておくことが活動をスムーズにするので望ましい
<p>次に来るJMATへの情報提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は避難所は四季の館、鹿沼マナビィハウス、穂別町民センターは落ち着いた状況であるが、経過に従いニーズが変化してきている側面があるので、保健師の訪問は不定期でも引き続き行ってほしい ・なお、むかわ町は鶴川地域と穂別地域の役場機能が独立して動いているところがあるので、両方の地区への訪問が望ましい ・むかわ町役場の10:00ミーティングは情報共有に有効なので、引き続き参加するのが望ましい

8) 9月18日(火) 厚真町

報告日 平成30年 9月18日

都道府県医師会名	北海道		
記入者名(責任者)	森田(光増)		
JMAT出動数	・医師(1名) 看護師(1名)、PT(1名)、OT(1名)		
活動期間	平成30年 9月18日 ~ 平成30年 9月18日		
活動場所	厚真町		
	訪問場所(避難所)	訪問人数	対応人数(集団)
	厚真中学校	3	1
	厚真中央小学校	3	
	上厚真小学校	3	
	厚真スポーツセンター	3	1
	追分公民館	3	1
	安平町民センター	3	3
活動内容	9:45 厚真中学校 80代 女性。既往に脊柱管狭窄症、胃がん摘出、高血圧あり。保健師より腰痛ある方おり、個別に対応してほしいとの依頼あり。右腰背部に疼痛及びスパズムあり。姿勢変換に疼痛が出やすいとのこと。日中は座位がほとんどのため、一定の姿勢が多い。座位にて体幹の屈伸ストレッチを指導。無理のない範囲内で行うよう説明。		
	10:25 厚真中央小学校 70代 男性。自宅へ戻る準備を進めている。環境設定後も問題なく過ごせているとのこと。		
	10:50 特に問題となることはない。DVT患者に関しては日赤にて対応とのこと。依頼があれば保健師を通して連絡するとのこと。		
	13:00 厚真スポーツセンター 80代 女性。町保健師より、訪問前に個別依頼の電話あり。保健師より依頼の電話あり、歩行器の必要性を評価してほしいとのことであった。現状では杖を使用しているが、ト		

	<p>トイレまでの距離は長く難しい。歩行器がないため、車椅子にフットレスト部分にペットボトル2L×2を固定し、車椅子を押すように歩行実施。動作も安定しており、トイレまでの移動およびトイレ動作も安定して可能となる。歩行器に関しては本部へ確認し、対応できるかを災害支援看護師へ報告とした。</p> <p>14:00 追分公民館</p> <p>80代 男性。昨夕に熱発にて追分キクチ病院へと入院となった。</p> <p>80代 女性。歩行器は使用していない。声かけにて起きることはあるが日中の活動は少ない。保健師との相談で避難者方の協力も得ながら、まずはベッド付近で起きる時間を確保することから始め、徐々に外へ誘導していく。</p> <p>14:45 安平町民センター</p> <p>80代 女性。歩行器は問題なく使用できており、自宅へ戻る準備が進んでいる。今後、自宅に帰った際に歩行器の使用も考えたいとのことで、担当のケアマネジャーや保健師に相談してみるとよいと情報提供する。</p> <p>80代 女性。下肢のむくみは変わっていないとのことだが、足部の運動は続けているとのこと。</p> <p>80代 女性。臥床傾向で喘鳴もある。足趾の変形はスポンジを入れていることで多少は良いとのこと。</p>
<p>現地のニーズ(不足物資等)</p>	
<p>課題</p>	<p>・今後も含めて、保健師との情報共有が必要。DoRATとしての活動だけでなく、リハ支援をどうするか現場の意見を聞いておく必要があります。</p>
<p>次に来るJMATへの情報提供</p>	

9) 9月19日(水) 厚真町・安平町

厚真町

報告日 平成30年 9月19日

都道府県医師会名	北海道		
記入者名(責任者)	井上(岡本)		
JMAT出勤数	・医師(1名) 看護師(1名)、PT(2名)、OT(2名)		
活動期間	平成30年 9月19日 ~ 平成30年 9月19日		
活動場所	厚真町		
	訪問場所(避難所)	訪問人数	対応人数(集団) 対応人数(個別)
	あつまスタードーム	6	6
	厚真中学	6	
	厚真総合福祉センター	6	3
	<p>特記</p> <p>3 町合同会議のエントリーシートは中止。入り口に各団体の活動内容を明記する場所あるのでそこにのみ記載。活動終了には活動報告書(3 町合同会議用)のものを提出するのはかわりなし。</p>		
活動内容	<p>あつまスタードーム</p> <p>9/18、車椅子で仮の歩行器作成した方に歩行器(グリーンケア)お渡しするために訪問、他の杖の方と介助入浴に向かうということで、簡単な体操を行い、入浴を見送る。管内の避難者さんは少なく12人程度(70名うち)、うち高齢者の方、休んでない方に声掛けし個別で体操など実施、杖使用のかたの使用状況をかくにんすると、サイズのあっていないものを使われている。←本当は切ってつかうとよいのか・・・</p> <p>玄関のたちあっぷの使用状況。たちあっぷの位置など修正。外の仮設の階段や段差がきになる。てすりあるといいのか。</p> <p>16時に再度訪問し、歩行器を希望の方にお渡しし、使用方法を説明、明日使用状況を確認)</p> <p>厚真中学校</p> <p>対応引継ぎのかた(18日相談依頼)を確認するため訪問、いらっしゃらず。環境確認して帰還</p>		

	<p>総合福祉センターゆくりで設置した、たちあっぷの状況確認と使用状況、杖の状況確認、 長めの杖で調整したいがカットしないと難しいかたがいた。 たちあっぷは非常に有効に使用されている。 (救護室入り口と、段ボールベッドの手すり、和室の入り口、 体育館の段ボールベッドの方の手すり)</p>
<p>現地のニーズ(不足物資等)</p>	<p>スリッパの避難所での介護シューズ</p>
<p>課題</p>	<p>杖の長さの調整が必要な方がいた。カットするしか対応ができないタイプなので、方法はないか。 仮設のトイレの段差が解消できない場所もあり、階段に手すりタイプのたちあっぷがあるとよいと考えている。物品対応があるとよい。</p>
<p>次に来るJMATへの情報提供</p>	<p>本日設置した、スタードームの歩行器の使用状況。 たちあっぷの使用状況フォローアップとして、自衛隊のお風呂にも確認が必要か。</p>

安平町

報告日

H30年 9月 20日

都道府県医師会名	北海道		
記入者名(責任者)	森田(光増)		
JMAT出動数	・医師(1名) 看護師(1名)、OT(1名)、ST(1名)		
活動期間	平成30年 9月19日 ~ 平成30年 9月19日		
活動場所	安平町		
	訪問場所(避難所)	訪問人数	対応人数(集団)
	追分公民館	3	2
	安平町民センター	3	1
	<p>特記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッド臥床のケースの廃用症候群の進行。 ・一方では、日中は避難所から外出している方が増加傾向。 		
活動内容	<p>① 厚真町 ゆくり 男性 普通食、水分とろみなしで食事し、時折ムセあるとのことだが、以前よりムセが時折あったとのこと、現在も変化がないとご本人より話あり。会話中に1度唾液でのムセもあり、食事中もムセる可能性はあるが咳はしっかりとできていた。評価としては嚥下のタイミングにご本人も意識されており、経過観察とする。但し、救護室の看護師はムセがある認識はなく認識のズレがみられた。</p> <p>② 追分公民館 女性(2F 入口が居室) ※ベッド上での生活が継続している。歩行器は使用していない。座位での軽運動、咳払い練習を実施。保健師より定期的に体操の声掛けを行うことを提案頂いた。 役割活動として、編み物、手芸は避難者からのお誘いがあったが、やりたくないとのこと、実施に繋がらなかったとのこと。雑巾づくりの協力を依頼したがその場での同意は得られなかったため、保健師より再度タイミングを見て声掛けを行うこととなった。運動前 BP128/48mmHg 運動後 BP146/42mmHg.</p>		

	<p>女性 1F 中央にベッド 両下肢エデム。</p> <p>座位での下肢運動を実施。日中もベッド上で過ごし、トイレのみ歩行的のため、廃用リスク高い。集団体操などの活動参加は拒否。震災後一度も入浴していない。元々入浴が好きではないとのこと。保健師が清拭で対応。自主練習として座位での下肢運動を提案。その場では了承。保健師が定期的に声掛けしていただけることとなった。</p> <p>趣味：カラオケが好き。パチンコ。お酒。</p> <p>環境調査</p> <p> 昨晚の宿泊者 80名</p> <p> 避難所体操 避難者の1名が中心になって2回/日、座位での集団体操している。</p> <p>③ 安平町民センター</p> <p> 女性 膝0A（玄関で転倒したケース）</p> <p> 現在、歩行器は気に入っているが、持つのを忘れて移動している。独歩可能まで改善しているが、0A やすり足があり転倒リスクは残存。</p> <p> 弾性ストッキングの着用を声掛けした。</p> <p>環境評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ椅子が奥にずれていたため、災害看護師に確認の上修正した。 ・帰宅者が少しずつ増えているため、大ホールに体操できるスペースが確保できるようになった。 ・昨晚の宿泊者 100名。 ・済生会さんが体操支援にきていたが、現地の看護師や早来町本部のDHEAT スタッフは把握していなかった。 ・避難所体操 朝にラジオ体操を流している。個人での自主体操のみ。
<p>現地のニーズ(不足物資等)</p>	
<p>課題</p>	<p>・トイレ以外、段ボールベッドから離床できていない方への個別支援ニーズがある。集団体操は拒否されている。廃用者への対応が課題。</p>

次に来るJMATへの
情報提供

・今後も状況も含めて保健師からのリハニーズの把握、現場の意見を聞いておく必要があります。

・追分公民館の2名は個別支援の継続が必要。保健師さんの協力を得ながら活動量の確保が重要となっています。

10) 9月20日(木) むかわ町・厚真町・安平町

むかわ町

報告日 平成30年 9月20日

都道府県医師会名	北海道		
記入者名(責任者)	町田(光増)		
JMAT出動数	・医師(1名) PT(1名)、OT(1名)		
活動期間	平成30年 9月20日 ~ 平成30年 9月20日		
活動場所	むかわ町		
	訪問場所(避難所)	訪問人数	対応人数(集団) 対応人数(個別)
	むかわ 四季の館	3	
活動内容	<p>1, 9:30 むかわ四季の館にて自衛隊より野外浴場の環境と福祉用具の評価</p> <p>2, 10:00 むかわ町役場庁舎にて保健師ミーティング</p> <p>3, 11:00 むかわ四季の館にて対応</p> <p>1. 2, 自衛隊からの要望として、①浴槽内のすのこが滑るため滑り止めが必要。②浴槽(外高60~65cm、内高70cm)のてすりが必要。現在女性浴室にたちあっぷ一つあり</p> <p>提案内容として①すのこ(180cm×60cm)の滑りどめとしてマットもしくはテープ式が望ましく、役場が今後申請予定。浴槽内の動線の長さは720cm程度。入手までの間はモップにてこまめに水分を拭き取っていくことが望ましい。②浴槽の出入りは階段を使用すると危険であるため、浴槽椅子を浴槽内外に設置し腰かけ跨ぎ動作にて実施が望ましい。現在ある手すりは、すのこの昇降へ使用することが望ましく、すのこの上に設置予定。浴槽内の椅子の高さが20cm程度で低いため30cm~の椅子の検討が望ましい。男性浴槽では掛け湯スペースがあるが通路が狭くテント壁に近いと誤って触れて転倒する事に注意が必要で注意喚起する予定。更衣室に椅子がないため設置の要望を行う。</p> <p>3, 段ボールベッド使用者のうち、ベッドの変形からへたりができ疼痛を誘発している。変形部分は臥床時での骨盤部分と臥床</p>		

	<p>状態時の臀部部分（臥床時は頭部）。対応として、使用しなくなった段ボールベッドを解体し、外箱は潰して骨盤箇所へ設置。中の筋交いを二つ折りにして頭部部分へ設置。その後再評価し、使用者の疼痛軽減されている。</p> <p>マットレス使用した方が臀部の疼痛があったため評価を実施。マットの硬さなどの問題ではなく長時間座位でいることによる疼痛が考えられるため、経過観察と本人からの疼痛箇所の精査を保健師に依頼。</p> <p>現在、咳など感染リスクのある方には2階にて過ごしてもらっているが、数が増えた場合に対処が難しいため、1階にも感染対策スペースを設けたいとの相談あり。対応として現在、更衣室や授乳室に使用していたパーテーションに余りがあったためそれらを利用し設置する事を提案する。</p>
<p>現地のニーズ(不足物資等)</p>	
<p>課題</p>	
<p>次に来るJMATへの情報提供</p>	

厚真町・安平町

報告日 平成30年 9月20日

都道府県医師会名	北海道			
記入者名(責任者)	井上(光増、近藤)			
JMAT出動数	・医師(1名) 看護師(1名)、PT(1名)、OT(1名)			
活動期間	平成30年 9月20日 ~ 平成30年 9月20日			
活動場所(厚真・安平)	厚真町・安平町			
	訪問場所(避難所)	訪問人数	対応人数(集団)	対応人数(個別)
	総合福祉センター	3	1	2
	あつまスタードーム	3		4
	追分公民館	3		
活動内容	早来町民センター			
	<p>・あつまスタードーム</p> <p>9/19 歩行器(グリーンケア)お渡ししたかたに、使用状況を確認。背筋もしっかり伸びて歩行が安定しており、夜間も歩行器でトイレに自分で行けていた。</p> <p>別の歩行器をお貸ししている方にも運動内容をご提示し、一緒に実施。</p> <p>高齢者ご夫婦にも個別体操指導実施</p> <p>・総合福祉センター</p> <p>活動が落ちている方への訪問と傾聴、運動のご案内を行い10:50より青空体操実施。救護室の方を外にお連れして、椅子に座りながら集団体操の実施</p> <p>ゆくりの入浴場所で設置したたちあっぷの状況確認</p> <p>・追分公民館</p> <p>杖歩行の方の運動状況確認と一緒に運動</p> <p>活動が落ちている方への介入は自称精神科医というかたのアドバイスで外部の方と心理的ストレスで関わりたくないと関わることをやめたものの、実際はその方は単なる避難者(精神疾患患者)だったと保健師の情報で後にわかった。2階の方は外部からの勧誘で体を起こさないと低活動となってしまうため、活動を促すきっかけとしてDoRAT介入は有効と保健師案。</p>			

	<p>・ 早来町民センター</p> <p>リウマチの方は介護ベッドで姿勢が崩れやすい、呼吸の喘鳴も強く明日は受診予定。適宜姿勢の修正が必要かと災害支援ナースに依頼</p> <p>右肩脱臼の方は、もうすぐ三角巾が外れるため、リハビリ内容を今後主治医の指示の後しっかりできているか評価必要</p> <p>高校生の男性、股関節の痛み。←P T鈴木が確認し筋肉痛のような状況だと考えられ、ストレッチを指導</p>
<p>現地のニーズ(不足物資等)</p>	<p>避難所で自活して体操時間があるものの、結局活動が落ちている高齢者は実施できていないのが現状。そういった方に工夫して体を動かす習慣をどの時間どのタイミングでだれと行うかを明確化し、継続することが重要。現時点の運動実施時間と対応者を拾って明確化する。(現在は日によって対応者がバラバラの避難所が多い)</p> <p>体操を集団で行うにしても場所がないことが多いので、その場所の確保を現場の避難所管理者と行う。</p>
<p>課題</p>	<p>今後の活動状況を明確に指示してもらえないと、現場のニーズを拾い、必要性があっても、その周知をどのように現場と共有していくか難しいし、現場の信頼感を失うきっかけとなる。現場での災害リハニーズがあることを考慮した対応が望まれる</p> <p>追分公民館の方は誘導して何か機会を設けて体を動かすきっかけが必要。</p> <p>追分公民館の運動は、自称精神科医の方が行っているとのことだが、内容に疑問がのこるものらしく、一度実施状況を確認し、ご本人の自尊感情を傷つけずに正しい方法をお伝えするとよいか。(保健師と協力)</p>
<p>次に来るJMATへの情報提供</p>	

VII. 胆振東部地震 費用関係

1) 費用弁済保証費用

① 交通費	134,087 円
② 運搬費	2,250 円
③ 宿泊費	15,000 円
④ 事務費	16,027 円
合計	167,364 円

2) D o R A T 支出費用

① 交通費	24,854 円
② 事務費	19,688 円
合計	44,542 円

- ※ 日当は、活動収束後に道庁から現地派遣者の勤務先への振り込みを提示された。今回の活動は、各職能団体のホームページを通して個人単位で参加を募った。多くの派遣者は、有休取得や休日を利用して参加しており、日当が勤務先に振り込む形だと混乱が生じると判断し、日当のみ辞退した。
- ※ 参加者に関して、交通費免除できる旨を伝えたが、個人的な参加ということで辞退もあったため、保証を受けたのは請求書を提出していただいた方のみ支払いとした。領収書を発生しなかった交通費と、どのような状況でも使用できる消耗品はDoRAT持ち出し費用から捻出した。
- ※ 9月の活動終了後にもたちあっぷ回収などで交通費などが発生しているが上記には含めていない

VIII. 謝辞

今回の活動に際しまして、福祉用具を無償でお貸しいただきました、業者の皆様方、活動に参加頂いた多くの皆様、活動に参加できなかったものの、公募に応募いただいた皆様、そして、活動拠点や人材等を多く派遣頂いた、札幌溪仁会リハビリテーション病院・苫小牧東病院の皆様、我々の活動を支援くださった沢山の各関係者の皆様にお礼を申し上げます。

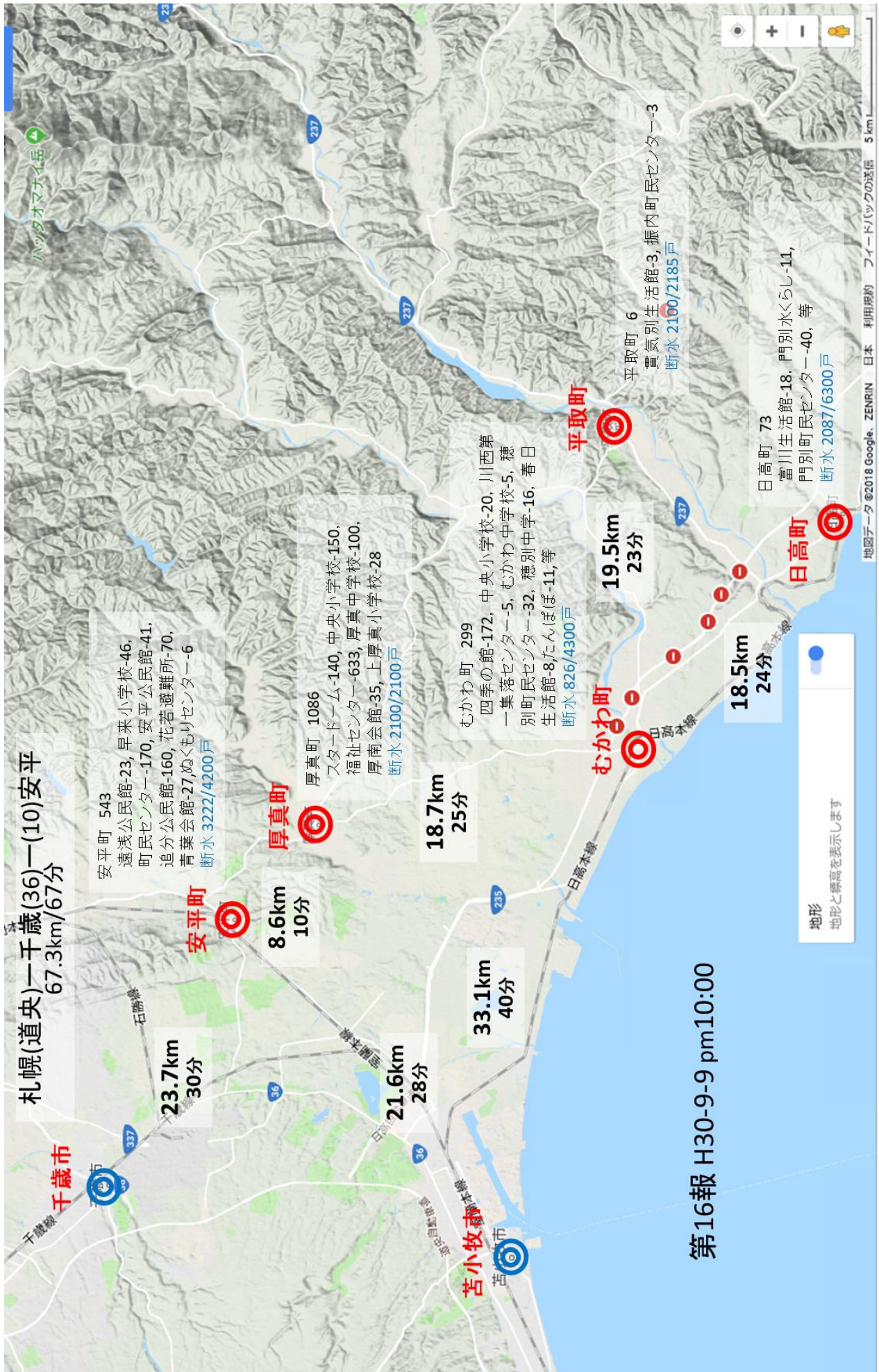
被災地の皆様は、まだ必死に復興に向けて努力されており、今後も現地の皆様の力になれることを考えながら行動できるよう、一層努力してまいります。

今回、平時からの備えの必要性を今まで以上に感じ、今後の活動を皆様と共に顔の見える関係で築いていきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

北海道災害リハビリテーション推進協議会
一同

參考資料

1. 平成 30 年北海道胆振東部地震災害状況図



2. 福祉用具貸し出しリスト

品名	個数
たちあっぷ CKA-01	6
たちあっぷ CKA-02	3
たちあっぷ CKA-03	13
たちあっぷ CKA-05	10
たちあっぷ CKA-13	3
セーフティーアームウォーカー Lタイプミニ	1
歩行器 シンフォニープラス 75	1
四点杖	5
据え置き式簡易便座 サニタリーエース OD	1

ご協力企業

エアウォーターハローサポート株式会社 愛らんど札幌営業所

矢崎化工株式会社 北海道支店

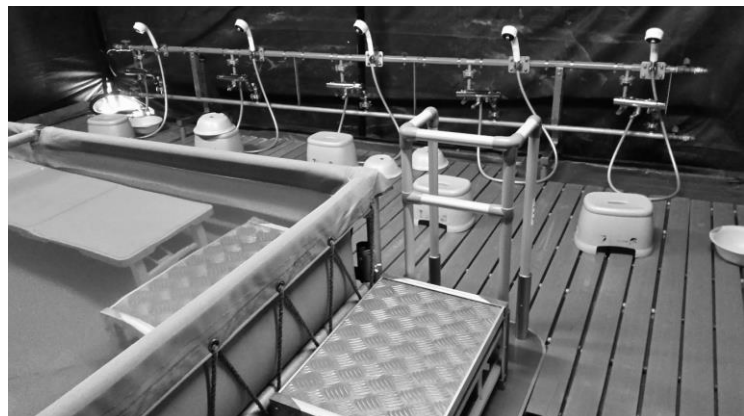
フランスベッド株式会社 メディカル札幌営業所

株式会社マルベリー さわやかセンター札幌東

パラマウントケアサービス株式会社 札幌メンテナンスセンター



たちあっぷの使用状況 1



たちあっぷの使用状況 2

3. 俯瞰図

		9月6木	7金	8土	9日	10月	11火	12水	13木	14金	15土	16日	17月	18火	19水	20木	21金	22土	23日
厚真							Y.D	M.D				H.D	M.D	M.D	O.D				
							IN	SS			S.P			IO	IN				
							OP	K.P			T.P	S.P	Y.P	M.P	S.P				
											F.P	F.O	N.P	N.N	N.O				
															M.O				
															T.P				
安平										F.D	H.D	K.D			O.D	IN			
											K.N, M.P, N.O	ST.P			N.O	S.P			
									IN				F.O		M.S				
										S.P			T.O		NN				
むかわ							MD				K.P	UD					MD		
						H.P	K.P			Y.P	Y.P	K.P					M.O		
						OP	K.O			Y.O	E.P	K.O					S.P		
											S.O	M.O							
苫小牧																			
個人ロシ派遣(公募)	道内											S	EP				AO		
	道外																		
各本部ロシ(DORAT)	光増		札		札	札	活	活											
	吉岡		札	札	札						札PM	札PM				札夕			
	櫻井											札	札AM						
	井上		札	札		札	札	札/活			札AM			札	札AM				札AM
	工藤				札														
	古郡				札							札PM							
	小林			札				活/札				札	札						
	小野		札	札	札	札/活	札/活	札	札	札AM				札	札	札	札	札	札
	早川				札			札PM	札PM					札	札		札		
	小嶋				札									札					
	畑原		札	札	札	札	活			札	札				札				
	村山				札														
	横串							活											

略語説明
D: 医師
N: 看護師
P: PT
O: OT
S: ST
C: CM

道内
道外

現地活動チーム

本 対策本部
札 調整本部
活 活動本部
活 現地活動支援

4. 避難所チェックシート

作成 : DoRAT

評価日	市町村名	避難所名	記入者

項目 状況の実際 備考

1 避難所の状況確認: 運営者に確認してみましょう。

- 1) 避難者数** 人数は 男性 女性
 昼夜で避難所の人数に差があるか? 昼 夜
 名簿はあるか ある・ない
- 2) 避難者状況** 年代は? 高齢者は多い? 子供は?
 どの地区の方が多いのか?
 体調不良・要介護者はいるか?
- 3) ライフライン** 水道 上水道 (良好・断水) 下水道 (良好・断水)
 電気 (発電機があるか、復旧見込み) 通電・停電
 ガス (プロパン・都市ガス) あり・なし・不通
 暖房 ※気温など問題はないか? 暖房 あり・なし
 冷房 ※気温など問題はないか? 冷房 あり・なし
 トイレ (常設・仮設) ・ 身障者用トイレ (あり・なし)
 テレビ: ある・ない ラジオ: ある・ない
 電話 (固定・携帯) あり・なし・不通
 インターネット (固定・携帯) あり・なし・不通
- 4) 物資** 食事 (配給: 炊き出し: その他:)
 (現状の不足品) 特別な食事はあるか? アレルギー・嚥下障害・離乳食・粉ミルク
 飲水 (どのような状況) 可能・不可能 給水車 (あり・なし)
 清潔ケア関連: 歯ブラシ・歯磨き粉 その他:
 福祉用具:
 ※福祉用具や介護用品の不足物資への依頼はできそうか

2 保健師との情報共有(避難者の情報を教えてもらいましょう。)

不在時は運営者、住民リーダーなどに確認しましょう。

1) 要介護者の有無と現状、程度

高齢者・障害者・乳児・妊婦・精神疾患・内科疾患・透析 など

2) 生活不活発病の高リスク者の有無

起居動作が困難 ・ 歩行が困難 ・ 嚥下が困難 ・ その他

3) その他

3 その他の医療支援

団体名 DMAT JMAT DPAT DHEAT 日本赤十字 その他 ()

4 避難所の生活環境 ; 自分で見てみて改善したほうが良い点はありませんか？

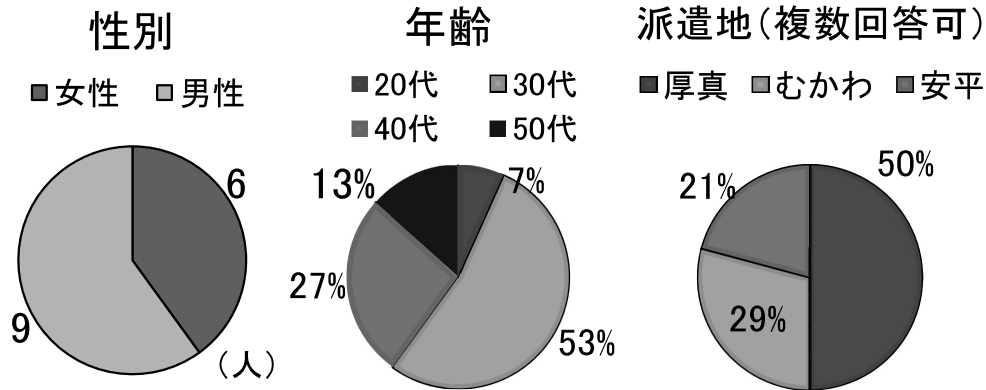
項目	状況の実際	介入必要度
1)トイレ	段差(メジャーで測定するとよいかも) 広さ(車いすが可能・介助者と可能) 個数・洋式・和式・身障者用 手すりの有無・位置 清潔か 匂いはどうか 定期的な清掃が決まっているか 位置 ⇒レイアウト変更の必要性はないか？(てすりや段差の解消など) 避難者の滞在場所は問題ないか？(距離、動線など) 避難者の滞在状況に課題はないか？(立ち上がりや歩行など)	
2)玄関	段差(靴の脱ぎ履きしやすいか・椅子が設置してあるか) 下駄箱はあるか？(下足が散乱していないか？) 建物内は 土足禁止・土足可能	
3)寝床	一人当たりどの程度の広さか？ 布団〇枚程度など 寝具：布団・毛布・マット・段ボールベッド・その他 福祉用具 立ち上がり補助具など	
4)清潔環境	手洗いは行われているか？ 手指消毒はできているか？ 風呂は入れるか？その方法・頻度は？ 感染症の恐れのある人への配慮は？ うがい・歯磨きなどはできているか？	場所はあるか(ある・ない) アルコール消毒液はあるか(ある・ない) (可能・不可能・自衛隊風呂あり) (ある・ない) (可能・不可能)
5)避難者状況	寝たきりになっている人はいないか？ 運動は足りているか？ 車中泊している人はいないか？ 食事がたべづらい人はいないか？ 元気がない人はいないか？ 深部静脈血栓症対策は行われているか？ ラジオ体操、その他の運動は行われているか？	

5 その他の気になった点

6 総合評価 リハ支援の有無 必要・要検討・不必要

5. 活動終了後アンケート結果

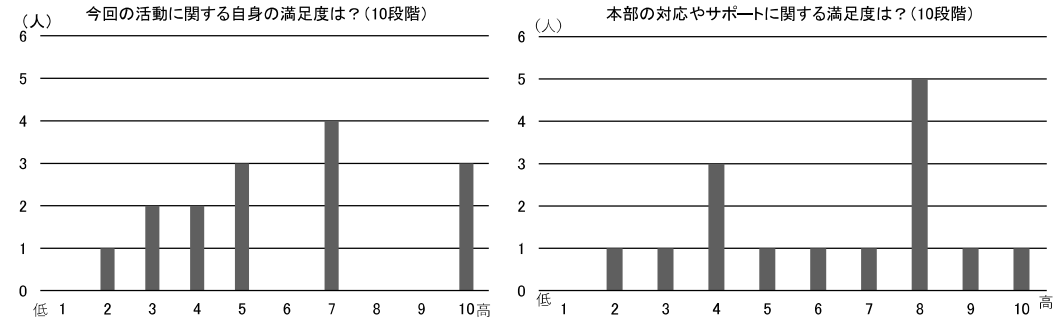
・2018年10月10日 時点



自由記載: 応募まで

- ・あらためて道士会の募集連絡文を拝見しましたが、初めて参加される方にとっても不明確である可能性があると思いました。今回の経験から、募集要項の定型文を作成し、その都度状況に合わせて内容を修正できる簡単なものを募集案内とともに提示できると、安心して応募できるのではと思います。特に、活動場所（本部か現地か）だけでなく、活動内容（保健師からのニーズ調査や避難所巡回などのごく簡単なもの）や交通費弁済について、保険については災害時は重要だと思いました。
- ・Google formsは、良いと思います。設問がすこし、回答が難しいものがありました
- ・スムーズに登録できたので問題ありませんでした。
- ・職場の理解があり参加可能でした。
- ・応募に関してはJMATもしくはJRATでの正式依頼が良いとは思いますが。職種毎の登録も必要ですが病院単位での活動も視野にいれることで医師との連携もスムーズかと思えます

満足度



自由記載: 派遣前

- ・始まりと終わりのインフォメーションが遅く、何をしたらいいか不安だった。情報共有の意味でも、活動参加者の精神的なサポートのためにも、活動のスタートとゴールを一か所に集めたほうが良い
- ・応募した後、受け取ってくれたのか、決まったのか、不安な方が複数いらっしゃいました。応募したけど、決まったのかな？など。応募フォームを本部で受け取ったら、自動返信でよいので、お礼とともに「ご希望の日にご希望の日にちでお願いする場合は、いつまでに連絡が入るのか」の連絡があると丁寧だと思いました。なお、「それまでに連絡が無い場合は、今回ご応募いただいた日程での参加はお願いしないこととして受け取ってください」などと一文があると、こちらから逐一連絡をしなくても、自分で判断してくれると思います。チームをどう組むのか、集合時間は何時なのかなどの詳細は、その次の段階の連絡でよいと思います。・なお、初めてで準備はどうしたらよいかの連絡が遅いと感じた方がいたようですので、「参加していただくときはこんな準備で」とお願いしない可能性もあると提示したうえで伝えたいかがでしょうか。
- ・具体的な派遣内容や持ち物の連絡が自宅を出発した後に来て、全て購入しなくてはいけなかったこと。また購入した物品を使用することはほぼなかった。交通費など支給されるのかも早めに連絡が欲しかった。
- ・必要な服装、道具などのアナウンスがあれば、はじめての人でも安心かと。災害時のマニュアルは、JRATとかにあります。必要に応じて、もっと簡潔でパッと見てわかるものがあると尚便利。あとは、常備道具の確保と、注意事項禁忌事項の確認。
- ・実際にどのように活動するのか、などが分かりづらかった
- ・“今回は、募集開始から派遣までの時間が短かったので、連絡が急になることは致し方ないと思いますが、派遣される側はまだ連絡が来ないと不安になった方もいらっしゃったかもしれません。申し込みを受け付けたときに、「調整に時間がかかるので、連絡が遅くなる、急に来ることがあります。いつでも連絡を受け取ることができるようにして下さい。」という文章があると、連絡はギリギリになるのだなと思って待ってくれるのではないかと思います。申し込みに、JMATに送るときに必要な情報、名前、年齢、携帯番号、さらに、ラインのIDなどを含めて申込をしてもらえると、前日のライン招待や、JMATの名簿作りが楽であるように思います。災害時は、災害時の車両を申し込むと高速料金が免除されるので、いつ災害があるかわからないので、DoRATメンバーで車をお持ちの方は今から申し込んでおくのはどうでしょうか。”
- ・メール連絡でなく電話連絡だった為、活動の日にちが合っているか少し不安になりました。
- ・初めての参加でした。前日に当日の活動内容を頂いたので、把握する時間が限られてしまった。どのような活動をするのか、具体的なオリエンテーション資料があれば、派遣前の準備としてはイメージつきやすいのかなと思いました。”
- ・オリエンテーションは必須だと思います。内容は、①被災地の状況、②活動目的、③活動方法・内容、④身を守るために、⑤緊急時の対応、⑥保障、などなど
- ・前日での調整がほとんどでしたので早めに調整できると良いです。

自由記載:派遣中

- 経験者がチームにいることで派遣された人だけでなく、被災地の人も安心感が違う。なるべく同じ人が同じ場所を回る方がよい。
- ・複数チームが行動する場合は、朝同じ本部(活動本部?今回は無かったです)に集合し、一日の活動共有をその日のうちにしたほうが良いと思います。なお、報告書は出ていますが、本部もしくは誰か1人が、口頭で報告を受けるようにするほうが良いと思いました。チーム間の共有が全くされていませんでした。・3町合同本部に報告書の提出が求められていたようですが、むかわ町はそちらにも入ることを全く知らされていませんでした。時間を決めて3時頃でもよいので一言聞いていただければ、報告していただく方に伝えられたと思います。しかし、「分からないから書けなかった」と言われただけでした。むかわの報告はされていないようで、JRATも介入していないかのようです…。残念でした。そのあたりも、共有ミーティングがあって本部のどなたかが分かっていたらいいれば、調整できたのではと思いました。
- 撤収時期について決定していなかったこと。メディア対応での発言の注意点の指示がなかったこと。
- 避難所チェックシートも、このGoogle formsがよいと思いました
- 町ごとのファイル、個別に関わった方の情報がわかるものが紙媒体で見られると有難いです。どなたかに携帯で、報告書を読み上げてもらい今日何するかを確認していました。
- 困った時はグループLINEでスムーズに連絡をとる事ができたのでよかったです。
- 経験者の方について、On the jobのような形でご指導いただきわかりやすかったです。
- 札幌本部と現場の役割の分担がはっきりしていると動きやすかったと思います。
- ロジスタッフへの確認がスムーズでラインを使用することで共有もでき非常に良いと思います

自由記載:今回の派遣活動に参加してのご感想

- 活動お疲れ様です。ロジの難しさ、スピード感が身にしみてわかりました。これから長くなりそうですが、できる限り協力したいと思います。よろしく願います。
- 個人的には大変勉強にもなりました。今までの経験も少なからず役に立ったのではないかと感じます。今後についてですが、今回の応募者の気持ちを大切に、緊急時の登録者として、登録制度を作るのはいかがですか。登録者は、発災から派遣、活動などのシミュレーションを行って、実際のときに流れを分かっただけだと、とても力になると思います。また、顔を合わせることで、平時からのチームビルディングに役立つと思いました。年に1度でも良いと思います。
- 災害リハを勉強していたが、実際に自分の目で見て感じる経験は非常に大切だと思った。道新に取材していただいたことで、周りの認知度も高くなった気がする。参加させていただきありがとうございました。
- 派遣当日の目的目標と、災害支援を通したプランニングが見えてくると、関わりやすいかな。はじめての体験でしたが、避難所には、まだセラピストが入っていない場所だったが、比較的避難所が落ち着いていたため、自分も落ち着いて対応できたと思います。バタバタな感じだと、もっと焦っちゃうかな?と思いました。
- 避難所の様子を多少なりとも知ることができました。被災地近隣で勤務していることもあり、今後の診療に役立ちます。
- 初めて参加させて頂いたが、被災した方々がどのようなことに困っているか実際に見たり聞いたり出来、自分も何か力になれればよいなど強く感じました。
- 北海道の番になり、今まで他県のお話を勉強してきたのに、やはりバタバタしてしまったのが反省です。現地でも、対象者の方にうまく関わることができなかつたり(歩行器的チェックで歩かないと拒否)、朝と夕の会議に出る事など、うまく立ち回れなかったのが反省です。何より活動が突然終わりになったのが、残念・無念です。

自由記載:派遣後

- 特にありません。
- このようなアンケートがあると良いのかもかもしれません。
- 終了後に班のメンバーで反省や改善点を話し合う事ができたので勉強になりました。
- デブリーフィングも必要かと思います。
- 本部での作成書類やロジへの送付先が最初は曖昧でしたのでそこが明確になっていると良かったです

- 初めての派遣活動に参加したので活動場所に行くまで不安でしたが、実際に活動すると困った時はメンバーに相談でき不安なく活動できました。今回の活動でDoRATにとっても興味をもったので講習会などがあれば参加し勉強したいと強く思いました。今回は参加させて頂きありがとうございました。
- まだまだ自分自身の準備不足が多々ありました。より研鑽を重ねより良い支援活動が出来る様にしたいと考えています。みなさん大変お疲れ様でした。
- 自分の全くの無知で、災害後早い段階でリハビリテーションが介入することすら知らず、恥ずかしい限りであり、看護師として参加したが役割的に何をすればいいのかさえも分からずであり、何か役に立ったのだろうか?という疑問が残る参加であった。しかし、災害時の各地方自治体の応援や自衛隊の活動や、災害支援ナースの活動などを目にし、JRATに参加できたことは自分の視野を広げ、学びにすることができた。
- 初めての参加でした。災害リハに関して無知に近かったため、知識、スキルに関して、研修を受けるなど準備が必要と感じました。今回、現場に行かせて頂いて貴重な経験をさせて頂きました。災害リハに対する関心が高まりました。ありがとうございました。
- 微力ですが、参加出来て本当に良かったです。療士がこのような場でも活躍できるのだと改めて感じることができました。災害はないのが一番ですが、万が一またこのようなことが起きた場合に積極的に行動に移したいと思わせてくれました。
- 初めてのボランティア参加でした。何気無い人との関わりや新たな出会い、繋がりなどのなかで、自分の思い描くセラピスト像が明確になった気がした。今後も継続して行きたいと思いました。
- 派遣前から、避難所アセスメントの後何を目的とするか、方針だけでも決めておいても良かったと思います。現場ではどこまで進んでよいか決められないため、本部からの指示待ちで活動を広げられずに足踏みとなり、もったいなかったと感じました。
- 早い段階での撤退となってしまったことはとても残念かつ地域の方々が心配です。今後の状況がどのようになるか、地域病院として協力はつづけていこうと思います

6. 北海道胆振東部地震 災害リハビリテーション活動報告

JRAT北海道(略称DoRAT) 事務局
 中村記念南病院 リハビリテーション科¹⁾
 札幌医科大学リハビリテーション医学講座²⁾
 光増 智¹⁾ 石合純夫²⁾

胆振東部の被災状況



- 胆振東部(厚真町・安平町・むかわ町)
- ・人口: 3町合わせて約2万3千人
 - ・合計面積 約1350平方Km(東京都の約6割に相当)
 - ・主な産業: 酪農や畑作等の農業
 - ・札幌から約70Km 高速道路使用で100分

避難者・避難所数(最大時 9月8日)

	避難者	避難所数
厚真町	1118	7
安平町	682	8
むかわ町	848	13
合計	2648	28

避難者・避難所数(発災1週後 9月13日)

	避難者	避難所数
厚真町	922	7
安平町	141	6
むかわ町	267	9
合計	1330	22

北海道胆振東部地震の概要



2018年9月6日午前3時7分
 胆振中東部を震源とする地震が発災。

直後にブラックアウトが発生。
 離島を除くほぼ北海道全域が約11時間停電。
 全道の5割が電源復旧したのは発生後約30時間後。
 64時間後に北海道電力が復旧宣言を行っている。

- (人的被害)
- ・死者43名
 - ・負傷者 782名
 - ・避難者数13,111名(最大9月7日22時)

災害リハビリ本部設営から現地活動開始まで

- ・9月6日未明 地震発災。
 札幌市内でも電源・通信状態が悪い中、連絡用メールアドレス作成。
- ・9月7日
 「北海道胆振東部地震災害リハビリテーション対策本部」を開設。
 ⇒北海道庁や北海道医師会と災害リハビリ活動について交渉開始。
 ⇒当初、医療機関の被害が大きくなり、JMAT活動について議論あり。
- ・9月11日
 北海道庁からJMAT(日本医師会災害派遣チーム)傘下での災害リハビリ
 テーション活動依頼を受け、同日午後に第1班として、むかわ町へ医師1
 名、理学療法士2名を派遣。
- ・9月12日
 厚真町の現地対策本部入りし、DMAT、日赤等と連携開始し活動を本格化。

現地入りした際の状況

現地災害対策本部



・厚真町では、段ボールベット・簡易トイレはプッシュ型支援で設置済

環境調整



高校野球部の寮を
デイサービスの浴室へ



自衛隊風呂に、簡易置き型手すりを設置



ベット横に、簡易置き型手すりを設置

JRAT北海道 (DoRAT) の主な現地活動

- ・避難所のリハ的トリアージ
- ・避難者のリハ的トリアージ
- ・集団体操の誘導



- ・主に保健師と連携し活動



集団体操誘導(厚真町)

避難所アセスメントシート

環境調整 生活区域わけの提案

(段ボールベット導入のタイミングであった、むかわ町で実施)

- ・世代や世帯、居住地域を考慮した配置
- ・生活区域(休憩、活動、衛生面)を意識した配置

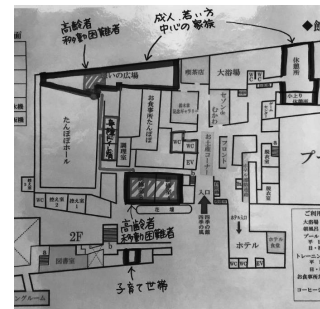


図 館内全体の人員配置(案)

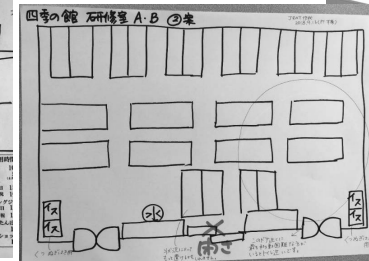


図 ひとつの居室の人員配置(案)



本部 (ロジスティクス)



クロノロ

人員配置表

本部 (札幌溪仁会リハビリテーション病院)



HARP (北海道リハビリテーション専門職協会) が、 介護予防事業を活用し後継として活動

地震前に契約していた介護予防事業を、先方の内諾を頂き前倒しで実施。

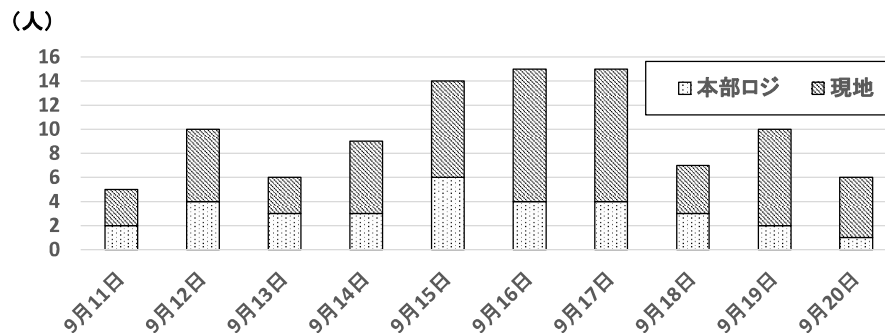
	活動期間	派遣人員	のべ日数
安平町 追分地区	11月15日~2月7日	31名	11日
安平町 早来地区	12月6日~2月27日	28名	11日
厚真町	11月21日~2月27日	30名	11日

JRAT活動終了(9月20日)から 約2か月のブランク
災害リハビリ支援の後継の難しさを実感



地元紙(北海道新聞)の記事から

活動収束までの現地・本部活動人数



(現地支援 のべ54名、本部ロジ のべ32名)

胆振東部地震では、発災後14日目、JMAT傘下でのJRAT活動の収束を求められた。
生活不活発な状態は、これから発生が予想されたため、複雑な心境であった。

課題

(支援の途絶)

- ・ JRATとして2週間活動後、2か月支援停止。活動期間は、都道府県の裁量による。

(人集め)

- ・ 各職能団体で募集。手上げて頂いたが、勤務先の了解・日程で苦労。
- ・ 医師の手上げは限定的。(北海道の専門医79名。うち支援への参加は7名)
- ・ 現地対策本部、道庁対策本部に人を配置できず。
- ・ 本部詰めスタッフは、交通費さえ出ず。

(現地派遣者間の申し送り)

- ・ ほとんどが、札幌から早朝出発する日帰り支援。申し送り不十分。

(福祉用具)

- ・ 必要なタイミングで供給できず。

(懸念)

- ・ 札幌から通えない被災地かつ道内完結の場合、実質、派遣困難。

発行元

北海道災害リハビリテーション推進協議会（DoRAT）事務局

発行年月日

2020年1月25日

問い合わせ先

DoRAT 事務局

〒005-8555

札幌市南区川沿 2 条 2 丁目 3 番 1 号

社会医療法人医仁会 中村記念南病院

TEL 011-573-8555（代）

事務局代表・DoRAT 理事長 光増智

ホームページ

<http://dorat.jimdo.com/>

広報担当 吉岡 井上

お問い合わせ：teamdorat@gmail.com

担当 井上真奈美まで